

科目名	心理学	担当教員	深堀 友覚		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科目は、国家試験の該当科目ではないが、一般常識レベルの知識(看護の国家試験でもたびたび問われる)や、精神看護学領域で出題率の高い単元の基礎をなす内容(例えば、「認知行動療法」の基礎的な知識としての「学習」理論など)は本科目において説明を行う。授業のスタンスとしては、常に国家試験を念頭に置いたものになることをご了承頂きたい。

なお、本科目の概要は以下の通りである。授業予定が変更になる時は、事前に通達する。

- ①看護と心理学…WHO の健康の定義、マズローの欲求階層説等
- ②看護とストレス…汎適応症候群、危機理論、ライフイベントとデイリーハッスル等
- ③学習…学習の定義、古典的条件づけ、オペラント条件づけ等
- ④パーソナリティ…パーソナリティの定義、クレッチマーの類型論、フロイトの精神分析学
- ⑤発達心理学…ハヴィガーストの発達課題、エリクソン、ピアジェの発達理論

授業計画

1	①看護と心理学(健康の定義、マズローの欲求階層説)
2	②看護とストレス(キャノンの緊急反応説、セリエの汎適応症候群)
3	②看護とストレス(ライフイベント、デイリーハッスル)
4	②看護とストレス(危機と予防理論、ストレングス・モデル、レジリエンス)
5	③学習(学習の定義、古典的条件づけの基本原理)
6	③学習(オペラント条件づけの基本原理)
7	③学習(学習理論の応用、行動療法)
8	④パーソナリティ(パーソナリティの定義と構造)
9	④パーソナリティ(クレッチマーの体格類型論)
10	④パーソナリティ(フロイトの精神分析学、心的構造論)
11	④パーソナリティ(防衛機制)
12	⑤発達(ハヴィガーストの発達課題)
13	⑤発達(エリクソンのライフサイクル理論)
14	⑤発達(ピアジェの発達理論)
15	最終試験(45 分)及び試験の解説
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	山村豊「系統看護学講座 基礎分野 心理学」(医学書院)
参考文献	必要に応じ、授業内にて発表する。
備考	都度、授業内にて伝達を行う。

科目名	論理学	担当教員	坂本 孝		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

日本語による文章作成技術指導を中心課題とし、わかりやすい、誤解されない、論理的な文章表現を具体的に指導・説明する。課題文を二回書かせ、添削・評価し、「悪文」をまとめたプリントを教材とする。「論理学」についても説明する。

授業計画

1	〈課題文 I〉 「入学前後のことについて」(600～800 字、次回提出) [テキスト 1] 「文章構成」
2	[テキスト 2] 「文章を書く技術」①
3	[テキスト 2] 「文章を書く技術」②
4	〈資料 A〉 課題文 I について(プリント「どこをどう直したらいいか」)
5	[テキスト 2] 「文章を書く技術」③
6	[テキスト 3] 「論理学」①
7	[テキスト 3] 「論理学」②
8	[テキスト 4] 「書き方のコツ」
9	[テキスト 5] 「悪文」
10	[テキスト 6] 「日本語練習問題(一)」
11	〈課題文 II〉 「文章を読んで自分の文章を書く」(600～800 字、60 分)
12	〈資料 B〉 課題文 II について(プリント「どこをどう直したらいいか」)
13	[テキスト 7] 「日本語練習問題(二)」
14	[テキスト 7] 「日本語練習問題(二)」
15	最終筆記試験
成績評価法	筆記試験(100 点満点)、二回の課題文評価「A」及び皆勤などのプラス点あり
使用テキスト	配布プリント集
参考文献	稲賀敬二監修「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 本多勝一「日本語の作文技術」(朝日文庫) 三浦俊彦「論理学がわかる事典」(日本実業出版社) 中村明「悪文」(ちくま学芸文庫) 大野晋「日本語練習帳」(岩波新書) 後藤偵典「書き方のコツ」(雑誌「プレジデント」2006-5-26 号)他
備考	〈課題文 I〉は初回に宿題とし、〈課題文 II〉は夏休み直前に実施する。

科目名	倫理学	担当教員	門林 道子		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

科学技術の発達、医療技術の進歩によって、生命の誕生時や生命の終わりをめぐって新たに生じてきた現代の生命倫理に関わる問題を主として取り上げ、問題が生じるに至った歴史的・社会的背景をも理解し、そこで何が問われているのかをともに考える機会としたい。現在、社会に投げかけられているさまざまな倫理的諸問題を理解するとともにそれらをめぐる社会的な制約の現況なども提示し、いのちをめぐる問題について知るとともに看護師となるための問題解決への論理的な思考能力と、基本となる人権意識をも養うことを目標としたい。

授業計画

1	道徳・倫理・生命倫理とはなにか
2	インフォームド・コンセントー告知と自己決定権をめぐって
3	いのちの終わりをめぐる諸問題① 終末期医療:ホスピス・緩和ケアⅠー日本の現状
4	いのちの終わりをめぐる諸問題② 終末期医療:ホスピス・緩和ケアⅡー海外事情
5	いのちの終わりをめぐる諸問題③ 安楽死・尊厳死
6	いのちの終わりをめぐって:ディスカッションと発表
7	いのちのはじめをめぐる問題① 体外受精・代理母
8	いのちのはじめをめぐる問題② 出生前診断と選択的人工妊娠中絶
9	患者中心の医療ー闘病記にみる生と死
10	ハンセン病ー差別と人権
11	ホロコーストと「人間」ーアウシュヴィッツ強制収容所と優生学的思想について
12	高齢者ー介護と虐待
13	クローン技術と再生医療
14	脳死・臓器移植をめぐって
15	試験
成績評価法	最終筆記試験(80%)、課題レポート・授業中の小レポートなど(20%)を総合評価
使用テキスト	特になし
参考文献	木村利人「自分のいのちは自分で決める」(集英社) 門林道子「生きる力の源にーがん闘病記の社会学」(青海社) 塩野寛・清水恵子「生命倫理への招待」(南山堂)
備考	授業は基本的にレジュメ・資料などを用意し、教科書は用いない。 他の参考文献は授業で適宜提示する。

科目名	教育学	担当教員	坂本 孝
学年・学期	2年 前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

看護師養成を意図したテキスト「教育学」(医学書院刊)に基づき、教育全般について概説する。具体的な目標としては、以下の4項目を中心とする。

- ① 教育学の基本的なカテゴリーをできるだけわかりやすく説明する。
- ② 教育の現状を意識し、その困難に焦点をあてる。
- ③ 看護・医療を目指す学生が、その仕事との関係から関心を持てるようにする。
- ④ ひとりの市民として持つべき教育学の基礎教養の獲得を目指す。

授業計画

1	第1部「教育学を学ぶために」: 第1章「社会の中の看護と教育」から第2章「教育とは何か―『教育』の概念まで」
2	第1部第3章「教育の対象―子ども観と発達」まで第4章「社会変動と教育」まで
3	第1部第5章「教育の組織化―学校」から 第2部「教育をなりたせるもの」: 第1章「教授―人を教えるということ」まで
4	第2部第2章「訓育―他者とのかかわりを導く」
5	第2部第3章「養護―教育の受け手を見まもる」
6	第2部第4章「発達―教育を受けて成長する」
7	第3部「教育の営みを考える」: 第1部「学びの場―学校と家庭」
8	第3部第2章「教育の目標と評価」
9	第3部第3章「教育のメディア―教育をデザインする」から第4章「教育の担い手―専門性と専門職性」まで
10	第3部第4章「C 現代教育改革と学校職員」から第5章「教育の場をつくるしくみ」まで
11	第4部「現代教育の新たな課題」: 第1章「キャリア教育(専門教育)」
12	第4部第2章「ジェンダーとセクシュアリティ」から第3章「特別ニーズ教育・インクルーシブ教育」(C 障害にどう向き合うか)まで
13	第4部第3章「D 発達障害に対する特別ニーズ教育・インクルーシブ教育」
14	第4部第4章「生涯教育」から第5章「シティズンシップ教育」まで
15	最終筆記試験
成績評価法	最終筆記試験 100%、但し皆勤者などへプラス点あり
使用テキスト	木村元編「系統看護学講座 基礎分野 教育学」(医学書院)
参考文献	「ブリタニカ国際大百科事典」 他
備考	

科目名	社会学	担当教員	門林 道子		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「人間とはなにか、社会とはなにか」を考えつつ、「現代」という時代の全体を捉え、現代社会が、どのような社会かを社会的見方を通して理解する。社会的行為、社会的集団、地位と役割、社会変動、文化、ジェンダーなどの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉問題など、現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを学習する。私たちが社会の中で、関係性の中で生きていることを認識し、社会生活を営むひとりの人間として社会を理解し考える力を涵養するとともに現代社会で起きている諸問題を把握し、客観的論理的に思考できる能力を養う。医療人として、また実生活に応用できる社会的知見の習得を目標にする。

授業計画

1	「社会学」とはなにか
2	現代社会論Ⅰ：人口動態統計からみる現代社会
3	現代社会論Ⅱ：孤独死と葬送儀礼の変容
4	現代家族論Ⅰ：「家族」とはなにか
5	現代家族論Ⅱ：現代社会における「家族」問題
6	高齢者をめぐってⅠ：「老年期」というライフステージ
7	高齢者をめぐってⅡ：認知症高齢者と社会福祉政策
8	行為と欲求
9	集団論
10	社会調査の方法：終末期医療とグラウンデッドセオリー
11	闘病記の社会学的研究
12	ライフストーリー/ライフヒストリー
13	ジェンダー論Ⅰ
14	ジェンダー論Ⅱ
15	試験
成績評価法	試験(80%)、課題レポート・授業中の小テストなど(20%)を総合評価
使用テキスト	特になし(授業時にレジュメや資料を配布)
参考文献	グレイザー他/木下康仁訳「死のアウェアネス理論と看護」(医学書院) 門林道子「生きる力の源に-がん闘病記の社会学」(青海社) 澤井敦他「死別の社会学」、中沢卓実他「孤独死を防ぐ」(ミネルヴァ書房) その他 授業時に適宜紹介
備考	

科目名	情報学	担当教員	城戸 聡		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護情報学とは、看護実践に伴うデータ・情報及び知識を管理しコミュニケーションするために、看護学・コンピュータ科学及び情報科学を統合する専門分野である。看護情報学は、患者・看護者及びその他のケア提供者がそれぞれの役割や様々な状況の中での的確に意思決定が行えるように、看護のデータ・情報及び知識の統合を促し、その概要を理解する。医療者及び患者の適切な意思決定を支援するための地域保健・看護情報システムや、看護の知識の発展に資するための情報処理についても学習する。さらに、効果的な情報の活用及び情報提供についても学ぶ。

授業計画

1	ガイダンス 看護情報学の理解と特性
2	看護における情報収集、情報処理、記録と活用
3	看護情報と倫理、医療・看護における個人情報保護、文書技法
4	医療情報システムの基礎 電子カルテ・文書法
5	看護医療における情報表現力と調査コミュニケーション
6	看護医療における研究調査発表方法1
7	看護医療における研究調査発表方法2
8	情報記録における文書法とレポート 基礎1
9	情報記録における文書法とレポート 基礎2
10	情報記録における文書法とレポート 応用
11	看護情報におけるデータ活用と種類
12	看護情報におけるデータ活用 データの解析と分析1
13	看護情報におけるデータ活用 データの解析と分析2
14	看護情報におけるデータ活用 応用
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 60%、グループ調査発表 20%、平常点(授業態度と出席状況)20%を基準に総合的に判断する。
使用テキスト	中山和弘他「系統看護学講座 別巻 看護情報学」(医学書院) 富士通 FOM 編「情報リテラシー入門編(改訂版)」(富士通 FOM)
参考文献	授業時に指示する
備考	

科目名	カウンセリング	担当教員	斉藤 さや可		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

カウンセリング・心理療法について、講義と実習、ワークや心理テストなどを通して学ぶ。
臨床や日常生活に役立つカウンセリング技術を身につけ、自己・他者の理解と支援を目指す。

授業計画

1	心理療法がめざすもの
2	心理療法の歩み
3	人の心の成り立ち
4	カウンセリングの基本技術
5	人間性に焦点を当てたカウンセリング
6	イメージ療法
7	芸術療法
8	行動に焦点を当てたカウンセリング
9	認知能力に焦点を当てたカウンセリング
10	家族療法
11	集団に焦点を当てたカウンセリング
12	日本独自の心理療法
13	心理検査について
14	まとめ
15	試験
成績評価法	実習、ワークへの参加態度と試験
使用テキスト	なし
参考文献	斉藤さや可「「ありがとう」で夢をかなえるハローキティの魔法の手帳」(講談社)
備考	

科目名	リラクゼーション	担当教員	石井 千恵・松村 由加		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

リラクゼーションの意味とその方法を体得し、患者等及びその家族の支援の方法を学ぶ。
また、セルフケアにも役立つ方法を学ぶ。リラクゼーションの方法を通してスタッフ同士のコミュニケーション等にも役立つ方法を習得する。

授業計画

1	リラクゼーションとは何かを知る
2	リラクゼーションの実際を体験する①
3	リラクゼーションの実際を体験する②
4	リラクゼーションの実際を体験する③
5	リラクゼーションの支援の方法を学ぶ
6	リラクゼーションの支援方法を体験する① ※演習室で体験
7	リラクゼーションの支援方法を体験する②
8	まとめ 試験
成績評価法	授業の参加姿勢、レポート、最終筆記試験を合わせて総合的に評価
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	
備考	毎回バイタルサイン測定を実施するので、実施に際し必要な物品を準備してください。 実際に体験するにあたって、必要となる物品はその都度お伝えします。

科目名	化学	担当教員	伊藤 昭三		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

医療と化学は密接に関係している。化学の基礎を習得し、化学的なものの見方・考え方ができるようにし、更に上級科目の生化学・栄養学・薬理学などを学ぶための必要不可欠な知識が身につくように講義を行う。

授業計画

1	化学の基礎知識—化学とのじょうずなつき合い方 ・化学で使用する計算 ・身のまわりの化学 ・化学の単位と元素の周期表
2	・単位変換、当量 ・物質の三態
3	・気体の性質
4	・液体・溶液の性質
5	・化学反応
6	・反応速度 ・化学平衡 I 化学平衡
7	・化学平衡 II 酸塩基平衡
8	・原子の構造と化学結合 I
9	・原子の構造と化学結合 II、無機化学 I
10	・無機化学 II
11	・有機化学
12	・高分子化学 I (高分子化合物とは・糖質)
13	・高分子化学 II (アミノ酸, ペプチド, タンパク質・脂質・核酸)
14	総まとめ
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 90%、課題提出評価 10%
使用テキスト	奈良雅之「系統看護学講座 基礎分野 化学」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	生物学	担当教員	池島 三与子
学年・学期	1 年 前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

- 1)生物学を学ぶことにより臨床科学の基礎能力を固める
- 2)キーワード(99 語)、重要な図(31)を理解する
- 3)ゼミナール課題、小テストを使って復習する
- 4)講義はテキストに従い進める

授業計画

1	第 1 章 生命体のつくりとはたらき
2	第 1 章 生命体のつくりとはたらき
3	第 2 章 生命維持のエネルギー
4	第 3 章 細胞の増殖とからだの成り立ち
5	第 4 章 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ
6	第 4 章 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ
7	第 4 章 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ
8	第 4 章 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ
9	第 5 章 生殖と発生
10	第 5 章 生殖と発生 第 6 章 個体の調節
11	第 6 章 個体の調節
12	第 6 章 個体の調節
13	第 7 章 刺激の受容と行動
14	第 7 章 刺激の受容と行動
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	高畑雅一他「系統看護学講座 基礎分野 生物学」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	英語 I	担当教員	山崎 紀子		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護・医療関係の用語と会話能力の習得を目指します。
基礎的な英文法と単語の復習をし、看護・医療関係で良くみられる場面での英会話や、長文読解の基礎力が向上できるよう学習していきます。

授業計画

1	学習目標・教材紹介・相互自己紹介と関連表現の学習 Chapter 1 Checking In ① Tell me about yourself(あなたのことを教えてください)
2	Chapter 1 Checking In ② Registration Form
3	Chapter 2 General Consultation
4	Chapter 3 Vital Signs ①
5	Chapter 3 Vital Signs ② The Human Body
6	Chapter 4 Admission and Orientation to the Hospital Routine
7	Hospital Unit 病棟案内図
8	Chapter 5 Data Collection from Patients
9	Case Report について学ぶ
10	Severity and Types of Pain (疼痛について学ぶ)
11	疾患名について学ぶ
12	Chapter 6 Daily Activities ①
13	Chapter 6 Daily Activities ②
14	まとめ
15	試験
成績評価法	授業の参加姿勢、小テスト、最終筆記試験等を合わせて総合的に評価
使用テキスト	仁木久恵他「Let's Listen, Speak and Learn 臨床看護英語(第6版)」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	英語Ⅱ	担当教員	山崎 紀子		
学年・学期	2 年 後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

看護・医療関係の用語と会話能力の習得を目指します。
長文読解力を強化するため、更に基礎力が向上できるよう学習していきます。

授業計画

1	英語Ⅰの総復習 / 重要点の再確認 Chapter 7 Tests / Physical Assessment
2	Chapter 8 Procedures
3	Chapter 9 Positioning the Patient in Bed
4	Chapter 10 Bath and Comfort
5	Chapter 11 Patient Teaching
6	Chapter 12 Small Talk
7	まとめ
8	試験
成績評価法	授業の参加姿勢、小テスト、最終筆記試験等を合わせて総合的に評価
使用テキスト	仁木久恵他「Let's Listen, Speak and Learn 臨床看護英語(第6版)」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	保健体育	担当教員	山下 奈美		
学年・学期	1年 前期・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

人間が求める健康(身体と心の調和のとれた状態)について理解し、筋力トレーニング・ストレッチング・有酸素運動・レクリエーションなど様々な活動を通して、自己の健康を保つ方法を学ぶ。さらに高齢者や障害者の特徴について理解し、患者や利用者に関わるうえでの基礎知識を得る。

授業計画

1	健康とは
2	健康維持について
3	高齢者の健康事情①
4	高齢者の健康事情②
5	体力とは
6	運動・骨格筋の走行の理解①
7	筋力トレーニング・骨格筋の走行の理解②
8	ストレッチング・骨格筋の走行の理解③
9	有酸素運動
10	腰痛予防について
11	リラクセーション・深部体幹筋エクササイズ①
12	リラクセーション・深部体幹筋エクササイズ②
13	高齢者の運動とレクリエーション
14	障害者スポーツに触れる
15	試験
成績評価法	授業に取り組む姿勢、レポート、最終筆記試験を合わせて総合的に評価
使用テキスト	
参考文献	
備考	授業内容に応じて資料がある場合は適宜配布。

科目名	医療総論	担当教員	城田 恵次郎		
学年・学期	1年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

「医学とは？」を通じて生命の尊厳を中心に考える。また、患者と看護の関わりの現今医療を解説する。

授業計画

1	生命の存在位置と生物の起源・医学史①
2	医の構成・内容(医学・医術・医道)
3	医療従事者・医制
4	医の倫理①
5	医の倫理②
6	医の倫理③
7	医の倫理④ 安全対策(含む)
8	試験
成績評価法	最終筆記試験、受講態度
使用テキスト	柳澤信夫「現代医学概論」(医歯薬出版)
参考文献	プリント
備考	

科目名	解剖生理学 I	担当教員	澁川 義幸 木村 麻記 ・ 大山 定男		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

生命現象の基礎を恒常性の点から説明できる。

授業計画

1	細胞機能について説明できる
2	細胞膜機能と膜輸送について説明できる
3	細胞内小器官について説明できる
4	皮膚と粘膜の構造について説明できる
5	血液の組成について説明できる
6	血漿成分について説明できる
7	血球成分について説明できる
8	免疫機能について説明できる
9	泌尿器解剖について説明できる
10	糸球体ろ過機能について説明できる
11	原尿生成と糸球体ろ過圧について説明できる
12	尿細管再吸収・分泌について説明できる
13	排尿機構について説明できる
14	まとめ
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	林正健二「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学」(メディカ出版)
参考文献	坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院)
備考	

科目名	解剖生理学Ⅱ	担当教員	澁川 義幸 木村 麻記 ・ 大山 定男		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

生命現象の基礎を恒常性の点から説明できる。

授業計画

1	内分泌器官について説明できる
2	ホルモンについて説明できる
3	ホルモンの種類について説明できる
4	ホルモンの分泌調節について説明できる
5	各種ホルモン作用について説明できる
6	各種ホルモン作用について説明できる
7	各種ホルモン作用について説明できる
8	内分泌疾患について説明できる
9	男性・女性生殖器の構造を説明できる
10	女性の性周期について説明できる
11	女性の性周期について説明できる
12	女性の性周期について説明できる
13	男性の生殖機能について説明できる
14	男性の生殖機能について説明できる
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	林正健二「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(1) 解剖生理学」(メディカ出版)
参考文献	坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院)
備考	

科目名	解剖生理学Ⅲ	担当教員	田崎 裕紀
学年・学期	1 年 前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

生体の恒常性とその維持についての知識を基にして、人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解する。
各器官系の正常な状態を理解できる。

授業計画

1	解剖生理学的用語①
2	解剖生理学的用語②
3	骨の名称①（体幹上肢）
4	骨の名称②（下肢）
5	消化器系①
6	消化器系②
7	消化器系③
8	呼吸器系①
9	呼吸器系②
10	循環器系①
11	循環器系②
12	循環器系③
13	循環器系④
14	血管系①
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	林正健二「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(1) 解剖生理学」(メディカ出版)
参考文献	坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院) 井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで」(西村書店)
備考	

科目名	解剖生理学Ⅳ	担当教員	田崎 裕紀		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

生体の恒常性とその維持についての知識を基にして、人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解する。
各器官系の正常な状態を理解できる。

授業計画

1	骨格及び筋系①
2	骨格及び筋系②
3	骨格及び筋系③
4	骨格筋の機能①
5	骨格筋の機能②
6	神経系①
7	神経系②
8	神経系（末梢神経）
9	神経系（中枢神経）①
10	神経系（中枢神経）②
11	神経系（中枢神経）③
12	皮膚系①
13	感覚器系①
14	感覚器系②
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	林正健二「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(1) 解剖生理学」(メディカ出版)
参考文献	坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院) 井上貴央監訳「カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで」(西村書店)
備考	

科目名	生化学	担当教員	池島 三与子
学年・学期	1 年 後期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

- 1)代謝経路を理解する。正常なしくみを理解した上で、病気を理解する。
- 2)キーワード、重要な図を理解する。
- 3)ゼミナール課題、小テストで復習する。
- 4)講義はテキストに従い進める。

授業計画

1	代謝総論 ホルモンによる代謝の調節
2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質(細胞、糖質、脂質)
3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質(タンパク質、核酸)
4	生命維持に必要な栄養素の構造と性質(ビタミン、無機質)
5	酵素、さまざまな代謝(概論)
6	糖質代謝
7	脂質代謝
8	タンパク質代謝、ヘムの生合成とビリルビン代謝
9	核酸代謝
10	エネルギー代謝の統合と制御
11	代謝の異常
12	遺伝情報
13	遺伝情報
14	先天性代謝
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	宮澤恵二「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(2) 臨床生化学」(メディカ出版)
参考文献	畠山鎮次「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学(14版)」(医学書院) 三輪一智「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学(13版)」(医学書院)
備考	

科目名	病態学Ⅰ	担当教員	城田 恵次郎
学年・学期	1 年 前期	時間数	15
		単位数	1

授業概要

人間の正常な状態とその疾病の成り立ちを理解する。

授業計画

1	炎症と免疫、膠原病
2	循環障害
3	腫瘍
4	感染症
5	代謝障害
6	先天異常と遺伝子異常
7	老化と死
8	試験
成績評価法	最終筆記試験、受講態度
使用テキスト	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進② 病理学」(医学書院)
参考文献	プリント
備考	

科目名	病態学Ⅱ	担当教員	西河 淳		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護師に必要な疾患に関する基礎知識を教授する。基礎医学と臨床医学との統合には、病態生理学は不可欠である。血液、呼吸器、腎臓・泌尿器のはたらきやしきみと障害を学び理解することを目標とする。

授業計画

1	病態学Ⅱ総論
2	血液のはたらき 骨髄の機能とその障害
3	赤血球の機能とその障害
4	白血球の機能とその障害
5	血小板と止血傾向
6	呼吸のしくみ 呼吸器の構造と機能、呼吸困難と呼吸不全
7	呼吸器系の防御機構の障害
8	換気の障害
9	肺循環の障害
10	呼吸調節の異常
11	腎・泌尿器のはたらき 腎臓の構造と機能
12	腎機能の障害
13	腎不全
14	泌尿器の機能の障害
15	試験
成績評価法	試験(80%)、レポートと授業に取り組む姿勢(20%)を総合的に評価する
使用テキスト	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)
参考文献	
備考	

科目名	病態学Ⅲ	担当教員	西河 淳		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護師に必要な疾患に関する基礎知識を教授する。循環器系、消化吸収系、免疫系のしくみと障害を学び理解することを目標とする。

授業計画

1	循環器のしくみ 心臓の構造と機能 冠循環の異常
2	心筋収縮の指令の障害
3	心房、心室、心膜の障害
4	心不全 血圧と血圧調整
5	血圧調節と末梢循環の障害
6	消化吸収のしくみ 消化管の構造と機能 咀嚼・嚥下の障害
7	胃・腸管の障害
8	消化・吸収の障害
9	肝臓・胆嚢の機能 肝細胞・肝小葉の障害
10	肝臓の代謝機能の障害 胆汁産生と胆道の障害 黄疸
11	膵臓の機能とその障害 腹膜腔・腹膜・腸間膜の障害
12	免疫のしくみ
13	免疫反応の低下
14	免疫反応の過剰
15	試験
成績評価法	試験(80%)、レポートと授業に取り組む姿勢(20%)を総合的に評価する
使用テキスト	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)
参考文献	
備考	

科目名	病態学Ⅳ	担当教員	山 美喜子		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

神経系・筋・感覚器を中心に基本的構造・機能を復習し、その障害による症状や疾患について理解する。国家試験との関連を理解するため毎回小テストを行う。

授業計画

1	神経系の分類・ニューロンの構造
2	支持細胞の種類、神経線維の分類
3	活動電位の発生、興奮の伝導
4	シナプスにおける興奮の伝達
5	神経伝達物質(種類と働き)
6	脳神経①(種類と働き)
7	脳神経②(種類と働き)
8	中枢神経系①(脊髄)
9	中枢神経系②(脳幹)
10	中枢神経系③(間脳・小脳)
11	中枢神経系④(大脳基底核)
12	中枢神経系⑤(大脳皮質)
13	脳血管障害①(脳出血)
14	脳血管障害②(脳梗塞)
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂 4 版」(南山堂)
参考文献	
備考	

科目名	病態学Ⅴ	担当教員	井出 吉信・山 美喜子		
学年・学期	2 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

内分泌、体液の調節を中心に、基本的構造、機能およびその障害について理解する。
授業毎のテーマに関連する国家試験問題や、臨床的意義を理解するため小テストを行う。

授業計画

1	口腔、咽頭、喉頭のしくみ	井出
2	咀嚼・嚥下機能とその破綻	井出
3	内分泌のしくみ、ホルモンの分類	山
4	下垂体:前葉ホルモン、後葉(神経内分泌)	山
5	甲状腺:甲状腺ホルモン(作用・分泌異常)	山
6	甲状腺・副甲状腺:血中 Ca^{2+} 濃度の調節	山
7	副腎皮質:ステロイドの種類と働き	山
8	副腎髄質:カテコールアミンの種類と働き	山
9	膵:インスリンの作用、糖尿病の分類	山
10	膵:糖尿病の合併症	山
11	女性の生殖 関与するホルモン	山
12	性周期(卵巣周期と月経周期)	山
13	受精のしくみ、胎盤の機能	山
14	分娩、授乳、女性ホルモンの変化	山
15	試験	
成績評価法	最終筆記試験 100%	
使用テキスト	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂 4 版」(南山堂)	
参考文献		
備考		

科目名	微生物学	担当教員	城田 恵次郎		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

感染症の原因となる病原微生物(細菌、ウイルスなど)の構造及び特性を解説する。
病原微生物の培養法、滅菌法、予防・治療法などを解説する。
感染に対する生体防御機構(免疫学)を概説する。

授業計画

1	ガイダンス、「病原微生物学の基礎知識」
2	微生物の世界、微生物学の歴史
3	細菌学総論(形態、構造)
4	細菌学総論(代謝、増殖、培養法)
5	ウイルス学総論(特性、構造)
6	ウイルス学総論(増殖、培養法)、真菌・原虫学総論
7	微生物学各論Ⅰ
8	微生物学各論Ⅱ
9	微生物学各論Ⅲ
10	感染症Ⅰ
11	感染症Ⅱ
12	感染症Ⅲ
13	免疫学要説Ⅰ
14	滅菌法と消毒法、微生物学実験
15	試験
成績評価法	最終筆記試験、受講態度
使用テキスト	岡田忍他編「微生物学・感染看護学」(医歯薬出版)
参考文献	プリント
備考	

科目名	薬理学 I	担当教員	四宮 敬史		
学年・学期	1 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

薬物の特徴、作用機序、人体への影響、および薬物の取り扱い、管理について理解する。

授業計画

1	薬理学を学ぶにあたって
2	薬が作用するしくみ(薬力学)
3	薬の体内挙動(薬物動態学)
4	薬物相互作用
5	薬効の個人差に影響する因子
6	薬物使用の有益性と危険性
7	薬と法律
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	吉岡充弘「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	薬理学Ⅱ	担当教員	四宮 敬史		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

各臓器に作用する薬物について学ぶ。

授業計画

1	抗感染症薬
2	抗がん薬
3	免疫治療薬
4	抗アレルギー薬・抗炎症薬
5	末梢での神経活動に作用する薬物
6	中枢神経系に作用する薬物
7	循環器系に作用する薬物
8	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
9	物質代謝に作用する薬物
10	皮膚科用薬・眼科用薬
11	救急の際に使用される薬物
12	漢方薬
13	消毒薬
14	輸液製剤・輸血剤
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	吉岡充弘「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	栄養学	担当教員	青木 博		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

栄養学と看護との関連を学ぶ。栄養状態の評価、栄養素の種類・働き、栄養の吸収・代謝など栄養学の基礎を学び、ライフステージ別の栄養学および臨床栄養へとつないでいく。
臨床の場に必要な栄養学を具体的な事例を挙げながら、授業を進めていく。

授業計画

1	第1章 健康と栄養 栄養とは、健康と栄養について
2	第1章 日常生活と栄養 食事と栄養、食事摂取基準など
3	第3章 栄養指導・保健指導
4	第4章 食物と栄養 炭水化物、たんぱく質、脂質について
5	第4章 食物と栄養 ビタミン、ミネラルについて
6	第5章 ライフステージと健康教育 妊娠・授乳期
7	第5章 ライフステージと健康教育 幼児期～老年期
8	第6・7章 臨床栄養学 糖尿病、高血圧
9	第6・7章 臨床栄養学 脂質異常症、肥満、痛風
10	第6・7章 臨床栄養学 虚血性心疾患、脳卒中、COPD
11	第6・7章 臨床栄養学 肝炎・肝硬変、膵炎・胆石症
12	第6・7章 臨床栄養学 CKD(慢性腎臓病)、IBD(炎症性腸疾患)
13	第6・7章 臨床栄養学 悪性新生物、嚥下障害、褥瘡
14	第6・7章 臨床栄養学 栄養補給法
15	試 験 解答解説など
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	中村美知子他「わかりやすい栄養学 第4版」(ヌーヴェルヒロカワ)
参考文献	
備考	パソコンとプロジェクターを使用して授業をいたします。

科目名	公衆衛生学	担当教員	宮嶋 由佳		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

健康と環境の関わりを学び、社会生活者としての人間の保健・医療・福祉の増進のために組織化された総合保健活動について理解する。

授業計画

1	公衆衛生学序論
2	人口統計(1)
3	人口統計(2)
4	疾病予防と健康増進
5	母子保健
6	精神保健
7	学校保健
8	老人保健
9	産業保健(1)
10	産業保健(2)
11	健康と環境(1)
12	健康と環境(2)
13	感染症対策
14	食品衛生
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	神馬征峰他「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生」(医学書院) 厚生労働統計協会編「図説国民衛生の動向 新年度版」(厚生労働統計協会)
参考文献	医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)
備考	

科目名	家族関係論	担当教員	山下 奈美		
学年・学期	2年 後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

「個人」に次いで社会を構成する最小の単位のひとつである「家族」は、現代社会の変化に伴い、大きく変化しています。この授業では、社会学の授業で学んだ概念や「社会的なものの方」を踏まえ、現在の家族が抱えている問題点や、現代の家族を考える上で特に重要なテーマを解説します。患者とその家族をより深く理解するために、「家族」についての基礎知識の獲得をめざします。単に知識を学ぶだけでなく、誰もが持っている家族についての「常識」を相対化するための、ものの方を獲得してほしいと思います。

授業計画

1	オリエンテーション 家族とは
2	社会変動とライフコース
3	近代家族のあゆみ
4	結婚とパートナーシップ
5	親子・世代のつながりのゆくえ
6	役割とジェンダー
7	ケアの社会化
8	試験
成績評価法	授業に取り組む姿勢、レポート、最終筆記試験を合わせて総合的に評価
使用テキスト	なし
参考文献	岩上真珠「ライフコースとジェンダーで読む家族 改訂版」(有斐閣)
備考	授業内容に応じて追加資料がある場合は適宜配布。

科目名	社会福祉Ⅰ	担当教員	伊東 光明		
学年・学期	2年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

少子高齢化社会が到来し、福祉社会への対応は、国及び国民の重要な課題である。将来、医療マンパワーの中心を担うことになる皆さんは、少子高齢化社会という現実の中で、それぞれ医療を実践していくことになる。そのため、皆さん一人ひとりが社会福祉に関する知識をしっかりと身につけ、高い立場に立って、福祉・保健・医療の諸問題を判断できるようになっていただきたいと私は考える。「社会福祉Ⅰ」では社会保険制度、高齢者福祉を取り上げる。

授業計画

1	はじめに:「社会福祉」という科目で何を勉強するのか Ⅰ.社会保険①－社会保険とは何か 医療保険
2	Ⅰ.社会保険②－年金保険
3	Ⅰ.社会保険③－年金保険(続き) 雇用保険 労災保険
4	Ⅰ.社会保険④－介護保険
5	Ⅱ.高齢者福祉①－高度成長期→家族の福祉機能の低下
6	Ⅱ.高齢者福祉②－少子高齢社会の諸指標
7	Ⅱ.高齢者福祉③－後期高齢者医療制度 ゴールドプラン バリアフリー新法 復習と補足:練習問題
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	福田素生他「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障と社会福祉」(医学書院)
参考文献	授業中、必要に応じて指示。
備考	

科目名	社会福祉Ⅱ	担当教員	伊東 光明		
学年・学期	2 年 後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

少子高齢化社会が到来し、福祉社会への対応は、国及び国民の重要な課題である。将来、医療マンパワーの中心を担うことになる皆さんは、少子高齢化社会という現実の中で、それぞれ医療を実践していくことになる。そのため、皆さん一人ひとりが社会福祉に関する知識をしっかりと身につけ、高い立場に立って、福祉・保健・医療の諸問題を判断できるようになっていただきたいと私は考える。「社会福祉Ⅱ」では公的扶助、障害者福祉、児童福祉、社会福祉とは、を取り上げる。

授業計画

1	Ⅲ.公的扶助①－最低生活費と収入等
2	Ⅲ.公的扶助②－生活保護法の基本原理
3	Ⅲ.公的扶助③－生活保護の原則 生活保護の動向(被保護世帯数、保護率など) Ⅳ.障害者福祉①－障害者基本法
4	Ⅳ.障害者福祉②－ノーマライゼーション 法定雇用率
5	Ⅳ.障害者福祉③－障害者プラン・障害者総合支援法 障害者の数の増加 Ⅴ.児童福祉①－児童福祉の理念
6	Ⅴ.児童福祉②－要保護児童に対する施策・児童の健全育成 児童に関する手当 Ⅵ.社会福祉とは①－レセフェールと世界大恐慌 F.ルーズベルトとケインズ
7	Ⅵ.社会福祉とは②－ベヴァリッジ報告 日本国憲法第 25 条 補習と補足：練習問題
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	福田素生他「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障と社会福祉」(医学書院)
参考文献	授業中、必要に応じて指示。
備考	

科目名	関係法規 I	担当教員	小林 憲人		
学年・学期	2 年 後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

看護師として必要な関係法規を学ぶにあたり、まず法の基礎知識を習得することを目標とする。具体的には、法とは何かについて概説した上で、憲法・民法・刑法の基本 3 法について、各法が医療の世界にどのように関わっているかという視点を踏まえて講義を行う。併せて最近の法に関するトピックについても触れることで、「法の世界」に少しでも関心を持てるように工夫する。

授業計画

1	法とは、法に関する基礎知識
2	日本国憲法の基礎知識
3	日本国憲法と医療関係法規
4	民法の基礎知識
5	民法と医療関係法規
6	刑法の基礎知識
7	刑法と医療関係法規
8	試験
成績評価法	筆記試験及び授業態度
使用テキスト	森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令」(医学書院)
参考文献	適宜指示及び資料配布します
備考	

科目名	関係法規Ⅱ	担当教員	小林 憲人		
学年・学期	3年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

「関係法規Ⅰ」の講義で学んだ知識をふまえ、看護師としての実務に必要な法律知識および国家試験合格に必要な知識を習得することを目的として授業を行う。併せて、医療に関する法律の最近のトピック等についても触れることで、時事的な問題についても関心を持てるように工夫する。

授業計画

1	医療関係法規(前年の復習及び医療法・医師法)
2	保健師助産師看護師法
3	看護師等の人材確保の促進に関する法律
4	薬事法規(薬事法、覚せい剤取締法)
5	保健衛生法規(地域保健法・母子保健法)
6	健康保険法
7	介護保険法
8	試験
成績評価法	筆記試験及び授業態度
使用テキスト	森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令」(医学書院)
参考文献	適宜指示及び資料配布します
備考	

科目名	看護学概論Ⅰ	担当教員	佐竹 史彦・中村 元女 山崎 紀子		
学年・学期	1年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科目では、看護を实践するうえでの基盤となる、看護の概念や看護の本質、看護の役割について教授する看護学入門科目である。看護とは何かを学び、看護専門職者に必要な視点や態度を養うとともに、自己の看護観について考える。

授業計画

1	看護の本質 看護の定義	中村
2	看護の歴史・看護理論 F. ナイチンゲール「環境論」	佐竹
3	看護理論 V. ヘンダーソン「ニード論」 職業としての看護 看護職者の教育 養成制度の課題	佐竹
4	看護の対象の理解	中村
5	国民の健康・生活の全体像の把握	中村
6	看護における倫理	中村
7	看護の提供のしくみ 1)	中村
8	看護の提供のしくみ 2)	中村
9	国際化と看護 日本に在留する外国人の看護	山崎
10	災害時の看護	山崎
11	看護学におけるメタパラダイム 1)	佐竹
12	看護学におけるメタパラダイム 2)	佐竹
13	看護学におけるメタパラダイム 3)	佐竹
14	看護学におけるメタパラダイム 4)	佐竹
15	試験とまとめ	
成績評価法	最終筆記試験 100% その他授業・演習の内容で加点をする	
使用テキスト	茂野香お他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論」(医学書院) ヴァージニア・ヘンダソン/湯植ます「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) V. スクレトコヴィッチ「ナイチンゲール看護覚え書 決定版」(医学書院)	
参考文献		
備考		

科目名	臨床看護総論	担当教員	山崎 紀子・岩上 緑里		
学年・学期	1年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

経過やライフサイクルごとの看護の基本姿勢を学び、健康のニーズの視点から、健康レベルに応じた看護の要点を理解する。

授業計画

1	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康のニーズ
2	家族の機能、対象者と家族の健康のニーズ
3	健康状態の経過に基づく看護① 健康の維持・増進
4	健康状態の経過に基づく看護② 急性期
5	健康状態の経過に基づく看護③ 慢性期
6	健康状態の経過に基づく看護④ リハビリテーション期
7	健康状態の経過に基づく看護⑤ 終末期
8	主要な症状を示す対象者への看護① 呼吸、循環
9	主要な症状を示す対象者への看護② 栄養・代謝、排泄
10	主要な症状を示す対象者への看護③ 活動・休息、認知・知覚
11	主要な症状を示す対象者への看護④ コーピング、安全、安楽
12	治療・処置を受ける対象者への看護① 輸液療法、化学療法、放射線療法
13	治療・処置を受ける対象者への看護② 手術療法、集中治療
14	治療・処置を受ける対象者への看護③ 創傷処置、身体侵襲
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業やGWへの参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・参画(20%)
使用テキスト	香春知永他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論」(医学書院) 北里大学病院看護部編「ナースポケットマニュアル」(医学書院)
参考文献	参考となる文献は、授業内で適宜提示する。
備考	

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ	担当教員	吉江 恭子・村上 範子		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

コミュニケーション技術の習得は人間関係の構築の上で重要である。また、快適な入院環境を整えることは、人間の自然治癒力を高めることに役立つ。この科目では、効果的なコミュニケーション技法や看護における教育指導方法、看護の基本的構成要素である環境の調整に必要な知識と科学的根拠に基づいた技術を教授する。

授業計画

1	看護技術を学ぶ意義と技術を実践するための要素	講義
2	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義
3	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義
4	効果的なコミュニケーションの技法 アサーティブネス	講義
5	コミュニケーション障害への対応	講義
6	看護における学習支援	講義
7	健康教育・指導の実際	講義
8	環境の概念 環境構成要素と環境調整	講義
9	病床環境の調整 リネン類の扱い方、リネン交換の基本	演習
10	ベッドメイキング（デモンストレーション）	演習
11	ベッドメイキング	演習
12	臥床患者のリネン交換 病床環境調整	演習
13	臥床患者のリネン交換 病床環境調整	演習
14	ベッドメイキング技術チェック	演習
15	最終筆記試験	
成績評価法	出席状況・授業やGWへの参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)	
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)	
参考文献	竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。	

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ	担当教員	佐竹 史彦		
学年・学期	1 年 前期～後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

対象者の身体的・精神的・社会的な健康状態を把握し、必要な看護を見出すためのヘルスアセスメント技術について教授する。ヘンダーソンの基本的看護の構成要素 14 項目に沿って人間の生活を系統的に捉えるための観察技術ならびにコミュニケーション技術・態度について学ぶ。

授業計画

1	ガイダンス ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念 1.アセスメントとは 2. 観察に必要な技術 3. 面接法による情報収集	講義
2	基本的観察技術と身体各部位の測定方法(身長・体重・腹囲)	講義
3	バイタルサインアセスメント①	講義
4	バイタルサインアセスメント②	講義
5	バイタルサイン測定	演習
6	バイタルサイン測定	演習
7	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント	講義
8	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント技術	演習
9	消化器系のフィジカルアセスメント	講義
10	筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント	講義
11	消化器系・筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント技術	演習
12	中枢神経系・意識レベルのフィジカルアセスメント	講義
13	精神・社会的側面のアセスメント	講義
14	バイタルサイン測定技術チェック	演習
15	最終筆記試験	
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(70%)、レポート・課題・演習参画(30%)	
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ」(医学書院) 医療情報科学研究所「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント(第1版)」(メディックメディア) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
参考文献		
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。	

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ	担当教員	岩上 緑里・村上 範子
学年・学期	1 年 前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

身体の清潔を保ち、適切な衣服を身につけることと、身体を動かすこと、休息をとることは、人間の基本的欲求の一つである。本科目では、専門的知識と科学的根拠を用いて、清潔・衣生活、活動と休息に関する援助を安全・安楽に実施するための方法論を教授する。

授業計画

1	基本的活動の援助 ①基本的活動の基礎知識 ②体位 ③移動	講義
2	ボディメカニクスと体位交換	演習
3	移動・移乗の基本と援助技術（車椅子・ストレッチャー）	演習
4	移動・移乗の基本と援助技術（車椅子・ストレッチャー）	演習
5	睡眠・休息の援助 ①援助の基礎知識 ②睡眠・休息の援助	講義
6	清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識 ②清潔の援助の実際	講義
7	病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	講義
8	清潔の援助技術 手浴・足浴	演習
9	清潔の援助技術 ケリーパッドを用いた洗髪	演習
10	清潔の援助技術 全身清拭と寝衣交換(デモンストレーション)	演習
11	清潔の援助技術 全身清拭と寝衣交換	演習
12	清潔の援助技術 全身清拭と寝衣交換	演習
13	清潔の援助技術 全身清拭と寝衣交換	演習
14	清潔の援助技術 全身清拭と寝衣交換	演習
15	最終試験	
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)	
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院) V.スクレトコヴィッチ「ナイティンゲール看護覚え書 決定版」(医学書院) ヴァージニア・ヘンダソン/湯植ます「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
参考文献	三上れつ著「演習・実習に役立つ基礎看護技術―根拠に基づいた実践をめざして(第4版) (ムーヴェルヒロカワ)」	
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めない。	

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ	担当教員	高橋 真希・村上 範子		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

人間の基本的欲求である食・排泄することの意義を理解し、食事・排泄に関する技術を専門的知識と科学的根拠を用いて安全・安楽に実施するための方法を教授する。

授業計画

1	ガイダンス 人間にとっての食事の意義 食事援助の基礎知識と栄養状態のアセスメント
2	医療施設の食事の特徴と援助の方法
3	食事介助の具体的方法
4	食事摂取が困難な対象者への援助
5	非経口的栄養摂取の援助ー経管栄養法、中心静脈栄養法
6	人間にとっての排泄の意義 排泄のメカニズムとアセスメント
7	自然排尿および自然排便の介助ー援助を提供する看護師の基本姿勢
8	排泄援助技術 トイレ・ポータブルトイレ
9	排泄援助技術 床上排泄(便器・尿器介助)
10	排泄援助技術 おむつ交換・陰部洗浄 (デモンストレーション)
11	排泄援助技術 おむつ交換・陰部洗浄
12	排泄援助技術 おむつ交換・陰部洗浄
13	排泄援助技術 おむつ交換・陰部洗浄 (技術チェック)
14	まとめ
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ	担当教員	佐竹 史彦		
学年・学期	1 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

科学的根拠に基づいた感染防止対策を実践するために必要な知識・技術ならびに対象者と医療者の安全を確保するために必要な知識・技術について教授する。また、苦痛のある対象者に対して苦痛を緩和し、安楽を確保するために必要な知識・技術を学ぶ。

授業計画

1	1.授業ガイダンス 2.医療事故の動向と看護職が負う責任
2	対象者の安全を確保するための技術
3	医療者の安全を確保するための技術(薬剤曝露・放射線曝露)
4	1.感染成立条件と感染予防の意義 2.医療関連感染とは
5	1.標準予防策 2.感染経路別予防策 3.医療器具関連感染予防
6	手指衛生技術(演習)
7	標準予防策の実践(個人防衛具の着脱)
8	1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 針刺し事故の防止
9	滅菌物の取り扱い(無菌操作)(演習)
10	滅菌物の取り扱い(無菌操作)(演習)
11	1.感染管理・サーベイランスとは 2.感染症関連法規 3.感染症をもつ患者・家族への看護
12	安楽を確保する援助とは
13	1.ポジショニング技術 2.温冷罨法技術
14	1.ポジショニング技術 2.温冷罨法技術
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。

科目名	基礎看護学方法論Ⅵ	担当教員	佐々木 美緒		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

対象者が治療や検査を受けるに至った身体的・心理的状态を理解し、安全安楽に診療過程に応じた看護を実践するために必要な知識および技術を教授する。

授業計画

1	与薬の基礎知識 ・与薬とは ・剤形と吸収経路 ・看護師の役割(正しい与薬、薬の管理)
2	経口与薬法 ・援助の基礎知識 ・援助の実際
3	非経口与薬法① ・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬の基礎知識、援助の実際
4	非経口与薬法② ・注射(1) 注射の基礎知識
5	非経口与薬法② ・注射(2) 注射の実施法
6	輸血管理 ・援助の基礎知識 ・援助の実際
7	「症状・生体機能管理技術」① ・検体検査の基礎知識 ・援助の実際
8	「症状・生体機能管理技術」② ・静脈血採血の技術
9	実技演習 「静脈血採血」
10	実技演習 「静脈血採血」
11	呼吸を整える看護とは
12	酸素療法・吸引を受ける患者の看護技術
13	酸素療法・吸引を受ける患者の看護技術
14	ME機器の取り扱いと看護職の役割
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ	担当教員	佐々木 美緒・中村 元女		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科目は、排泄障害を持つ患者や創傷のある患者の身体的状態、心理的状态を捉え、援助を実践するために必要な科学的根拠に基づいた知識および技術を教授する。また、身体的侵襲を伴う処置を受ける患者の特性を理解し、安全・安楽に治療に臨めるよう援助するための知識および技術・態度を学ぶ。さらに、基礎看護学方法論で修得した知識と技術・態度を統合する。

授業計画

1	1. ガイダンス 排尿障害のある患者の看護
2	排尿障害のある患者の看護 導尿、膀胱留置カテーテルの管理
3	排便障害のある患者の看護
4	排便障害のある患者の援助技術 便秘のアセスメント 浣腸・摘便
5	創傷管理の基本的知識
6	創傷管理の基本的知識
7	ケアを通じてもたらされる安楽－褥瘡予防 援助の実際(演習)
8	ケアを通じてもたらされる安楽－効果的なポジショニング(演習)
9	排尿障害のある患者への援助技術 (演習)一時的導尿技術
10	排尿障害のある患者への援助技術 (演習)一時的導尿技術
11	排便が困難な患者への援助技術 (演習)グリセリン浣腸
12	排便が困難な患者への援助技術 (演習)グリセリン浣腸
13	創傷管理技術(演習)ドレッシング法
14	創傷管理技術(演習)包帯法
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(80%)、レポート・課題・演習参画(20%)
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ」(医学書院)
参考文献	竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)
備考	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。

科目名	基礎看護学方法論Ⅷ	担当教員	岩上 緑里		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護過程は、対象者に必要な看護を見だし、個別性に合わせた看護を系統的に実践するための方法である。本科目では、看護過程に関する基本的知識・技術について教授し、個人ワーク・グループワークを通して看護過程を展開する能力を養う。

授業計画

1	看護記録の種類と記載方法
2	看護過程の概念と基本的知識
3	看護過程の構成要素(アセスメント・診断)
4	看護過程の構成要素(計画・実施・評価)
5	看護過程と看護理論
6	看護過程に看護理論を活用する (情報収集・分析解釈・関連図の書き方)
7	看護過程の事例展開 (対象の全体像を捉える・基本的欲求の状態)
8	看護過程の事例展開(情報の分析・解釈)
9	看護過程の事例展開(関連図・看護上の問題点抽出)
10	看護過程の事例展開(優先順位と看護目標設定)
11	看護過程の事例展開(看護計画立案)
12	看護過程の事例展開(看護計画の実践:シュミレーション)
13	看護過程の事例展開(看護計画の実践:シュミレーション)
14	看護過程の事例展開(評価)
15	最終筆記試験
成績評価法	出席状況・授業や GW への参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。規定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験(70%)、看護過程記録(30%)
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅰ」(医学書院) 秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版」(ヌーヴェルヒロカワ) ヴァージニア・ヘンダソン/湯慎ます「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)
参考文献	必要に応じて、授業内で提示する。
備考	

科目名	基礎看護学実習Ⅰ	担当教員	看護師科全教員・非常勤教員		
学年・学期	1 年 後期	時間数	45	単位数	1

授業概要

- 1.看護の対象となる人々の生活と健康について知り、療養生活を支援する看護職の役割について学ぶ。
- 2.保健医療機関や保健医療専門職の役割と機能について学ぶ。
- 3.看護の対象者の人間理解を深めるとともに、対象者に必要な日常生活援助を科学的根拠に基づいて考え、実践できる基礎的能力を養う。

授業計画

<基礎看護学実習Ⅰ-1>

- 1.入院している対象の生活と援助の実際を知る。
- 2.保健医療専門職者の活動を知る。
- 3.病院における看護活動に触れ、将来の看護師像や看護学を学ぶ意欲を高める。
- 4.看護学生としての責任と態度について学ぶ。

学内オリエンテーション(1 日)

病院実習(3 日)

病院内見学・看護場面の見学・カンファレンス

学内まとめ(1 日)

<基礎看護学実習Ⅰ-2>

- 1.人の尊厳の重視と人権の擁護を基本に据えた援助行動を理解することができる。
- 2.看護基本技術の的確な実施について理解することができる。

学内オリエンテーション(1 日)

病院実習(5 日)

学内実習(2 日)

詳細は看護学実習基本要項ならびに基礎看護学実習Ⅰ要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当教員	看護師科全教員・非常勤教員		
学年・学期	2 年 前期	時間数	90	単位数	2

授業概要

看護の対象を理解し、看護を実践できる基礎を学ぶ。

授業計画

- 1)対象をとりまく環境を理解し、対象に必要な日常生活の援助が実践できる。
- 2)看護過程の技術を受け持ちの患者に適用し、看護過程のプロセスを理解することができる。

学内オリエンテーション(1 日)

病棟実習(12 日)

病院・病棟オリエンテーション

患者 1 名受け持ち、看護過程を展開する

学内実習(3 日)

詳細は看護学実習基本要項ならびに基礎看護学実習Ⅱ要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	

科目名	成人看護学概論	担当教員	佐竹 史彦		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

成人期にある対象の特徴と発達課題を総合的に学ぶ。
成人期の健康に影響する諸因子を明確にし、成人保健の意義および保健指導の重要性を理解する。

授業計画

1	I 成人とは 成人期の特徴
2	II 成人をとりまく今日の状況 <家族・仕事をめぐる状況 日常スタイルの変化 環境問題の深刻化 人生や健康にかかわる意識の変化>
3	III 成人期にある人の看護① <健康とは 成人保健と健康動向 保健・医療・福祉政策と健康課題>
4	III 成人期にある人の看護② <生活習慣病 職業疾患 生活ストレスに関連する健康障害 セクシュアリティ・更年期に関連する健康障害>
5	IV 成人期看護の基本的考え方① <関係を結ぶ 適応を促す>
6	IV 成人期看護の基本的考え方② <発達を促進する 統合を支援する>
7	V 健康状態に応じた看護① <ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション>
8	V 健康状態に応じた看護② <急性期の看護>
9	V 健康状態に応じた看護③ <リハビリテーション看護>
10	V 健康状態に応じた看護④ <慢性期の看護>
11	V 健康状態に応じた看護⑤ <終末期の看護>
12	VI 成人看護を充実させる実践的環境① <看護者の倫理綱領 専門職間の連携と協同>
13	VI 成人看護を充実させる実践的環境② <医療安全 人材育成>
14	まとめ
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学:成人看護学概論」(南江堂)
参考文献	参考となる文献は、授業内で随時紹介する。
備考	

科目名	成人看護学方法論 I	担当教員	古川 弘美		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

外科的治療を受ける患者の特徴と理解を深め、看護師の果たすべき役割を考える。
周手術期にわたる理解を展望、患者家族の心身の状態変化に関する洞察力・実践力を養う。

授業計画

1	急性期看護概論 急性期看護とは
2	周手術期看護とは 周手術期医療における倫理 患者の変化
3	手術前期の看護 術前オリエンテーション・準備
4	手術期の看護① 手術室看護とは 手術室看護のプロセス
5	手術期の看護② 手術直前・手術中の看護 手術終了時の看護
6	手術後期の看護① 回復室で生じうる問題と観察のポイント
7	手術後期の看護② <意識レベルのアセスメント>
8	手術後期の看護③ <呼吸状態・循環状態のアセスメント>
9	手術後期の看護④ <疼痛・術後感染のアセスメント>
10	手術後期の看護⑤ <消化器合併症・術後せん妄のアセスメント>
11	手術後期の看護⑥ <早期離床の促進、日常生活の援助と心理的援助> 退院に向けた指導・支援
12	看護事例展開①事例紹介
13	看護事例展開②問題リスト・看護計画
14	看護事例展開③発表
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 90%、課題 10%で総合的に評価する。
使用テキスト	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護 I」(南江堂) 矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院)
参考文献	
備考	この科目では看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	成人看護学方法論Ⅱ	担当教員	山田 里美		
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

慢性疾患・がんなど生涯にわたりコントロールを必要とする患者及び家族の特徴を知り、その人らしい健康生活を維持するための看護の方法を習得する。

授業計画

1	I 慢性期看護とは<慢性期の特徴、治療の特徴> II 慢性疾患を有する人とその家族の理解
2	III 慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本 <セルフマネジメント、教育的支援、社会資源の活用>
3	IV 慢性疾患の主な治療方法<インスリン療法・人工透析・ペースメーカー装着・ステロイド療法>
4	IV 慢性疾患の主な治療方法<化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植・肝動脈塞栓療法>
5	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 呼吸器系<気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がん>
6	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 循環器系<不整脈、虚血性心疾患、慢性心不全>
7	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 消化器系<胃・十二指腸潰瘍、肝硬変、潰瘍性大腸炎、クローン病>
8	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 腎、代謝・内分泌系<慢性腎不全、糖尿病、甲状腺機能障害>
9	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 血液・免疫系<白血病、HIV 感染症、関節リウマチ>
10	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 脳・神経系<脳梗塞、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症>
11	V 慢性疾患を有する人とその家族の援助 感覚器系<視覚障害、突発性難聴>
12	看護事例展開①(2型糖尿病)患者紹介・情報の整理とアセスメント
13	看護事例展開②(2型糖尿病)関連図と問題リストの作成
14	看護事例展開③看護計画立案
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業態度・課題 20%で総合的に評価する。
使用テキスト	鈴木久美他「看護テキスト NiCE 成人看護学:慢性期」(南江堂)
参考文献	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学:成人看護学概論」(南江堂)
備考	この科目では、看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	成人看護学方法論Ⅲ	担当教員	山田 里美		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

回復期にある患者や家族が障害を受容し、意欲を持って自分の能力を最大限発揮し、自立・自律して生活できる力を獲得できるための看護の方法を習得する。

授業計画

1	I リハビリテーション看護とは II 生活機能障害をもつ人とその家族の理解
2	III リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論 IV リハビリテーション看護の目的と方法
3	V 回復過程とリハビリテーション看護
4	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(高次機能障害)
5	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(言語機能障害)
6	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(麻痺による運動機能障害)
7	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(運動器症候群)
8	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(循環機能障害)
9	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(呼吸機能障害)
10	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(摂食嚥下障害)
11	VI 生活機能障害とリハビリテーション看護(排泄機能障害)
12	看護事例展開①患者紹介・情報の整理とアセスメント(個人課題)
13	看護事例展開②関連図と問題リストの作成(個人課題)
14	看護事例展開③看護計画立案(個人課題)
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業態度・課題 20%で総合的に評価する。
使用テキスト	酒井郁子他「看護学テキスト NiCE リハビリテーション看護」(南江堂)
参考文献	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学:成人看護学概論」(南江堂) 香春知永他「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論」(医学書院)
備考	この科目では、看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	成人看護学方法論Ⅳ	担当教員	佐藤 有岐		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

人間の尊厳とは何か、苦痛や苦悩を抱える対象者を支援する看護の方法を学び、緩和ケアを通して看護とは何かを再認識する。

授業計画

1	緩和ケア概論①
2	緩和ケア概論②
3	援助的コミュニケーションについて
4	全人的苦痛について
5	スピリチュアルケア
6	意思決定支援と倫理
7	臨死期のケア
8	家族看護・喪失と悲嘆
9	緩和ケアの実践 ①痛み
10	緩和ケアの実践 ②呼吸困難・悪心、嘔吐
11	緩和ケアの実践 ③消化器症状(消化管閉塞、腹水、便秘)
12	緩和ケアの実践 ④倦怠感・浮腫
13	緩和ケアの実践 ⑤精神症状(不安・うつ・せん妄)
14	「看護とは」について考える(グループワーク、発表)
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 70%、授業態度 30%で総合的に評価する。
使用テキスト	梅田恵他「看護学テキスト NiCE 緩和ケア」(南江堂)
参考文献	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学:成人看護学概論」(南江堂)
備考	看護を実践する上では症状アセスメントが必須であるため、解剖生理学や病態学について、また看護師の役割について事前に習得しておくこと。

科目名	成人看護学方法論Ⅴ	担当教員	三浦 実衣華・佐竹 史彦		
学年・学期	2 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

成人期看護学で必要な看護技術を習得する。さらに入院中に成人対象者の具体的な事例をもとに、身体・精神・社会的側面を捉えた看護過程の展開を習得する。本授業では入院直後から急性期・回復期・退院までの一連の過程を追ひ、各期における看護の評価方法も併せて習得する。

授業計画

1	成人の健康生活を促すための看護技術 患者理解への看護の視点(健康障害時の看護の考え方)
2	看護事例展開(心筋梗塞) ①情報の整理とアセスメント(基本様式Ⅰ～Ⅲ) 循環のアセスメントとカルペニートの共同問題
3	急性期の看護展開② <CCU 入院から PTCA 施行> 病態関連図から全体像(Ⅳ) 問題リストの作成
4	急性期の看護展開③ 看護目標の立案(Ⅴ)
5	循環器疾患の急性期にある人を支援する技術 ①モニタリング(ECG など)、大腿動脈からシースを留置中の観察と管理 ②冠動脈バイパス術を受ける患者の看護
6	急性期の看護展開④ 優先順位に合わせた看護計画の立案(Ⅴ)
7	急性期の看護展開⑤ 看護評価
8	急性期から回復期へ 看護展開⑥ 情報の整理、再アセスメントと問題リストの作成(Ⅰ～Ⅳ)
9	回復期の看護展開⑦ 看護目標と看護計画の立案(Ⅴ)
10	心臓リハビリテーションと看護の要点 退院に向けての患者・家族への学習支援
11	事例展開⑧ 看護の評価(看護要約)
12	成人看護実践・評価のための看護理論の理解
13	救急救命処置技術<心肺蘇生法、止血法>
14	救急救命処置技術<院内急変時の対応>
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 70%、授業態度・課題 30%で総合的に評価する。
使用テキスト	林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ」(南江堂) 林直子他「看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱ」(南江堂) 矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院)
参考文献	授業内で紹介する。
備考	この科目では、看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)や成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳまでの理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	老年看護学概論 I	担当教員	渡部 孝子		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

身体的機能や社会環境が変化していく老年期を生きる高齢者の特徴とそれらが日常生活に及ぼす影響について教授する。さらに高齢者のもつ力(生命力、英知、生きる技法)を洞察し、広い視点から高齢者を理解する力を養う。また、高齢者が健康な生活を送るための社会生活や倫理的課題、人生の終末を迎える高齢者とその家族が経験する課題と看護職の役割を教授する。

授業計画

1	老年看護学を理解するための基盤① <“老い”の意味>
2	老年看護学を理解するための基盤② <老年期の理解>
3	老年看護学を理解するための基盤③ <高齢者をとりまく社会制度>
4	老年看護学を理解するための基盤④ <高齢者の権利擁護>
5	老年看護の理念と目標
6	老年看護の対象となる人々の特徴① <対象特性・対象理解・からだ>
7	老年看護の対象となる人々の特徴② <こころ・かかわり・暮らし>
8	老年看護の対象となる人々の特徴③ <生きがい・歳月の積み重ね・高齢者ケアにおける高齢者理解の発展>
9	高齢者の健康生活の支援 <維持と支援、生活機能のアセスメントツール>
10	高齢者の療養生活の支援① <薬物療法・手術療法・リハビリテーション>
11	高齢者の療養生活の支援② <受療形態・地域連携・療養生活>
12	高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族への支援①
13	高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族への支援②
14	生かし生かされる地域づくり
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業態度・課題 20%で総合的に評価する。
使用テキスト	正木治恵他「看護学テキスト NiCE 老年看護学概論」(南江堂) 真田弘美他「看護学テキスト NiCE 老年看護学技術」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	老年看護学概論Ⅱ	担当教員	桑藤 裕美		
学年・学期	2年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

高齢社会にある我が国の現状について学び、老年期にある人々の健康問題と保健、医療、福祉の課題および対策を教授する。また、高齢者の生活機能を整える看護の役割について教授する。

授業計画

1	老年看護に活用できる理論・アプローチ① 〈健康の概念・セルフケア・サクセスフルエイジング・ウェルネスアプローチ〉
2	老年看護に活用できる理論・アプローチ② 〈コンフォート・ライフストーリー・レジリエンス・エンパワメント・スピリチュアリティ〉
3	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護
4	認知症高齢者の支援① 〈認知症と社会制度〉
5	認知症高齢者の支援② 〈認知症の予防〉
6	認知症高齢者の支援③ 〈認知症の高齢者への看護〉
7	老年看護学の課題
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	正木治恵他「看護学テキスト NiCE 老年看護学概論」(南江堂) 真田弘美他「看護学テキスト NiCE 老年看護学技術」(南江堂)
参考文献	授業の中で提示する。
備考	

科目名	老年看護学方法論Ⅰ	担当教員	市原 今日子		
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

高齢者に起こりやすい症状や生活機能障害、健康障害のアセスメント方法などの基本的な知識と技術を習得し、疾病や障害を持つ高齢者とその家族への援助方法を習得する。

授業計画

1	現代の高齢者とその理解
2	高齢者に特徴的な症状と看護① 〈起立・歩行障害、感覚機能障害〉
3	高齢者に特徴的な症状と看護② 〈摂食・嚥下障害〉
4	高齢者に特徴的な症状と看護③ 〈脱水、低栄養〉
5	高齢者に特徴的な症状と看護④ 〈皮膚掻痒感、痛み、褥瘡〉
6	高齢者に特徴的な症状と看護⑤ 〈尿失禁、便秘・下痢〉
7	高齢者に特徴的な症状と看護⑥ 〈不眠、うつ〉
8	高齢者に特徴的な症状と看護⑦ 〈寝たきり、せん妄〉
9	高齢者に特徴的な症状と看護⑧ 〈転倒、骨折、感染症〉
10	高齢者に特徴的な疾患と看護-事例展開 〈大腿部頸部骨折①〉
11	高齢者に特徴的な疾患と看護-事例展開 〈大腿部頸部骨折②〉
12	高齢者に特徴的な疾患と看護-事例展開 〈アルツハイマー病①〉
13	高齢者に特徴的な疾患と看護-事例展開② 関連図と問題リストの作成
14	高齢者に特徴的な疾患と看護-事例展開③ 看護計画立案
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 70%、課題 20%、授業態度 10%で総合的に評価する。
使用テキスト	正木治恵他「看護学テキスト NiCE 老年看護学概論」(南江堂) 真田弘美他「看護学テキスト NiCE 老年看護学技術」(南江堂)
参考文献	
備考	この科目では、看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	老年看護学方法論Ⅱ	担当教員	桑藤 裕美		
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

老年期にある対象とその家族、およびそれを支える人々、また加齢に伴う心身機能の変化と主な症状から高齢者のアセスメントの特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術について学ぶ。演習では看護場面で遭遇することの多い ADL 機能の低下や認知機能の低下した高齢者の事例を通して、高齢者の看護に必要な技術を体験する。また、高齢者役の体験から、他者に依存しなければならない高齢者の気持ちや、看護者としての対応について理解を深める。

授業計画

1	高齢者の理解と看護の特徴 老年看護の基本技術-ヘルスアセスメント
2	高齢者の生活と看護① 〈呼吸・食事〉
3	高齢者の生活と看護② 〈排泄・動作と移動〉
4	高齢者の生活と看護③ 〈睡眠・体温〉
5	高齢者の生活と看護④ 〈清潔・コミュニケーション・性〉
6	高齢者に特徴的な疾患と看護-急性期の看護 〈胃がん〉
7	高齢者に特徴的な疾患と看護-慢性期の看護 〈慢性閉塞性肺疾患〉
8	高齢者に特徴的な疾患と看護-緩和ケア 〈大腸がん①〉
9	高齢者に特徴的な疾患と看護-緩和ケア 〈大腸がん②〉
10	高齢者に特徴的な疾患と看護 〈パーキンソン病①〉
11	高齢者に特徴的な疾患と看護 〈パーキンソン病②〉
12	高齢者に特徴的な疾患と看護-薬物療法を受ける高齢者の看護①
13	高齢者に特徴的な疾患と看護-薬物療法を受ける高齢者の看護②
14	老年看護技術の新たな動向と課題
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	正木治恵他「看護学テキスト NiCE 老年看護学概論」(南江堂) 真田弘美他「看護学テキスト NiCE 老年看護学技術」(南江堂)
参考文献	授業の中で提示する。
備考	この科目では看護を学習するため関連する系統部分(基本的な形態学、機能学、病態学など)について理解が必要であり、事前に習得しておくこと。

科目名	小児看護学概論 I	担当教員	永山 治美		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

小児看護の対象と変遷および小児の成長発達について学び、小児の看護の理念・役割を理解する。

授業計画

1	小児看護の特徴と理念:めざすところ、統計、小児看護の変遷
2	小児看護の特徴と理念:倫理、小児看護の課題
3	小児の成長・発達
4	小児の栄養
5	新生児:特徴、機能の発達
6	新生児:養育及び看護
7	乳児:特徴、機能
8	乳児:養育及び看護
9	幼児・学童:特徴、機能、日常生活
10	幼児・学童:幼児の養育及び看護、学童の特徴
11	幼児・学童:環境、養育及び看護
12	思春期・青年期:特徴、機能
13	思春期・青年期:心の問題、飲酒、性、反社会的行動、事故、看護
14	家族の特徴とアセスメント
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論」(南江堂) 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術」(南江堂) 真部淳他「看護学テキスト NiCE 病態治療論[14] 小児疾患」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	小児看護学概論Ⅱ	担当教員	永山 治美		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

1年次、小児看護学概論Ⅰで既習した(胎児期～思春期)にある小児の成長・発達および小児の特徴や理念を想起させながら、①小児と家族を取り巻く社会や病気や障害を持つ小児の特徴的環境と家族の看護②小児における疾病の経過と看護③小児のアセスメントの基本を学ぶ。概論Ⅱでの学習が臨床看護への発展学習であることを意識づける。また、小児保健の動向にも注目し小児をめぐる社会状況の変化等ニュースや諸統計を用いて思考力を高めたい。

授業計画

1	小児と家族を取り巻く社会(1) ①児童福祉法 ②母子保健と医療支援
2	小児と家族を取り巻く社会(2) 予防接種と学校保健
3	病気・障害を持つ小児と家族の看護
4	小児の状況(環境)に特徴づけられる看護
5	小児における疾病の経過と看護
6	小児のアセスメント(1) ①アセスメントに必要な技術
7	小児のアセスメント(2) ②身体的アセスメント
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論」(南江堂) 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術」(南江堂) 真部淳他「看護学テキスト NiCE 病態治療論[14] 小児疾患」(南江堂)
参考文献	尾内一信編「子どもの感染症と予防接種の手引き」(母子衛生研究会)
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	担当教員	永山 治美
学年・学期	2年 前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

健康障害が小児に与える影響を学び、対象に応じた看護の役割と基本的な援助の方法を理解する。

1. 主な小児疾患 2. 主な症状に対する看護 3. 小児看護の特殊技術

授業計画

1	先天異常、新生児疾患、代謝内分泌疾患
2	免疫疾患、アレルギー疾患、感染症
3	呼吸器疾患、循環器疾患
4	消化器疾患、血液疾患、悪性新生物
5	腎疾患、神経疾患
6	疾病・障害を持つ小児と家族の看護
7	症状を示す小児の看護(一般状態・疼痛)
8	症状を示す小児の看護(呼吸・循環)
9	症状を示す小児の看護(発熱・消化器)
10	症状を示す小児の看護(水分電解質異常・血液)
11	症状を示す小児の看護(神経・皮膚)
12	検査・処置を受ける小児の看護と援助技術
13	外来受診・入院を必要とする小児と家族の看護
14	小児救急看護
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論」(南江堂) 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術」(南江堂) 真部淳他「看護学テキスト NiCE 病態治療論[14] 小児疾患」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	担当教員	高橋 真希		
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

子どもと家族をとりまく社会環境の変化は、子どもの心身の健康に大きく影響を与えている。そのような中で、さまざまな健康状態にある子どもと家族に対して必要な看護と子どもにとっての最善の利益とはなにかを教授する。

授業計画

1	1.ガイダンス 2.新生児の看護 3.先天異常をもつ子どもの看護
2	低出生体重児の看護
3	内分泌・代謝性疾患をもつ子どもの看護
4	1.免疫・アレルギー疾患をもつ子どもの看護 2.呼吸器疾患をもつ子どもの看護
5	1.循環器疾患をもつ子どもの看護 2.消化器疾患をもつ子どもの看護
6	1.腎・泌尿器疾患をもつ子どもの看護 2.神経疾患をもつ子どもの看護
7	1.子どもの悪性新生物と看護 2.予後不良の子どもの看護
8	周手術期にある子どもの看護
9	1.虐待を受ける子どもの看護 2.心身障害をもつ子どもの看護
10	看護過程の展開
11	看護過程の展開
12	看護過程の展開
13	看護過程の展開
14	看護過程の展開
15	最終試験
成績評価法	出席状況・授業やGWへの参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。 最終筆記試験(70%)、レポート・課題・参画(30%)
使用テキスト	二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論」(南江堂) 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術」(南江堂) 真部淳他「看護学テキスト NiCE 病態治療論[14] 小児疾患」(南江堂)
参考文献	授業時に、参考となる文献等は随時紹介する。
備考	

科目名	母性看護学概論	担当教員	松村 由加		
学年・学期	1 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

母性各期の特徴と発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。

母子保健の動向を把握し、母子保健対策を理解する。

授業計画

1	母性看護学の概念①母性看護学とは 親になること
2	母性看護学の概念②家族とは 母性看護学の基盤となる理念と概念
3	母子保健統計と社会資源①母子や家族に関わる統計の理解 母子保健統計の理解
4	母子保健統計と社会資源②母子に関わる法律と社会資源 周産期医療体制
5	生殖に関する形態機能とライフサイクル①発生 遺伝
6	生殖に関する形態機能とライフサイクル②性分化のメカニズム 生殖器の形態と機能 社会的・心理的特性から見た女性・男性
7	性と生殖をめぐる倫理的課題
8	国際化の中での母性看護学の役割
9	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援① 女性のライフサイクルの全体像 思春期
10	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援② 成熟期
11	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援③ 更年期
12	ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援④ 老年期
13	女性のライフサイクルの事例 ウェルネス・アプローチ①
14	女性のライフサイクルの事例 ウェルネス・アプローチ②
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 80%、授業参加・課題 20%
使用テキスト	齋藤いずみ他「看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅰ:概論・ライフサイクル」(南江堂)
参考文献	参考となる文献等は随時紹介する。
備考	

科目名	母性看護学方法論 I	担当教員	永山 治美		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

妊婦の身体・社会・心理的变化、及び胎児の発育について理解し、妊娠期に起こりやすい問題や援助方法、妊娠各期に必要な指導・援助、異常妊娠について学習する。
親役割、家族機能、家族の発達について理解する。

授業計画

1	母性の発揮を促す看護 1)母性とは(母性・父性・親性の発達) 2)母性看護のありかた
2	3)リプロダクティブヘルス・ライツ 4)ヘルスプロモーション
3	妊娠期における看護 1)妊娠の成立
4	2)妊娠に伴う母体変化 母体の生理的变化
5	3)妊娠期の心理的・社会的特性
6	4)胎児の発育
7	5)妊娠の経過と診断
8	6)胎児の発育と健康状態の診断
9	7)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント
10	8)妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 9)妊娠期のアセスメントの重要性
11	10)妊婦と家族の看護・保健指導
12	妊娠の異常と看護 1)ハイリスク妊娠
13	2)妊娠初期～中期の異常
14	3)妊娠後期の異常
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	大平光子他「看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱ:マタニティサイクル」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	母性看護学方法論Ⅱ	担当教員	松村 由加		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

正常な分娩経過と正常に経過するために必要な分娩各期の看護について理解できるよう人形や図解などを用いて講義する。

ハイリスクな状況にある産婦に必要な看護が理解できるよう、人形や図解を用いて講義する。

授業計画

1	分娩期の看護 分娩期の看護の視点/分娩期の経過の全体像 分娩の定義/分娩の分類/分娩 3 要素
2	正常分娩の経過とアセスメントと援助① 分娩の前兆/分娩開始
3	正常分娩の経過とアセスメントと援助② 分娩各期のアセスメントと援助
4	分娩期の正常経過からの逸脱と看護① 分娩期の正常経過からの逸脱への看護の視点
5	分娩期の正常経過からの逸脱と看護② 胎児に関する異常/胎児付属物の異常/周産期の異常出血と看護援助 /遷延分娩と看護援助
6	出生直後の新生児のアセスメントと援助 出生前からの準備/出生直後の新生児のアセスメントと援助 家族のアセスメントと援助
7	産科処置と産科手術 分娩誘発・促進/吸引分娩, 鉗子分娩/軟産道の損傷
8	試験
成績評価法	規定の出席時間 単位修得試験総合で 60 点以上をもって合格とする。
使用テキスト	大平光子他「看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱ:マタニティサイクル」(南江堂)
参考文献	医療情報科学研究所「病気がみえる 10 産科」(メディックメディア)
備考	

科目名	母性看護学方法論Ⅲ	担当教員	吉江 恭子		
学年・学期	2 年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

褥婦及び新生児の正常な経過や生理的变化と正常に経過するために必要な看護を理解できるよう、人形や図解を用いて講義する。ハイリスクな状況にある新生児・褥婦に必要な看護を理解できるよう、人形や図解を用いて講義する。母性意識・父性意識を発展させる機会となるよう生命の神秘について講義する。

授業計画

1	産褥の定義:産褥期の看護の視点/産褥期の経過の全体像	講義
2	産褥期の経過:褥婦の生理的变化/新たな関係性の獲得/社会的役割	講義
3	産褥期の身体状態のアセスメントと援助	講義
4	親になっていく過程のアセスメントの視点	講義
5	褥婦の正常経過からの逸脱への看護の視点	講義
6	生まれた子どもが障害をもつ家族の援助・子どもを亡くした家族の援	講義
7	新生児への看護の視点 新生児の生理的特徴/新生児の感染防御機能の特徴/新生児の発達	講義
8	新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助 新生児の身体的特徴とフィジカルアセスメント	講義
9	新生児の発達状況のアセスメントと援助 新生児の成長と発達/新生児の心理・社会的発達への援助	講義
10	新生児の健康問題と看護① 新生児仮死/分娩外傷/低出生体重児/新生児一過性多呼吸	講義
11	新生児の健康問題と看護② 胎便吸引症候群/黄疸/ビタミン K 欠乏症/先天異常を有する新生児	講義
12	新生児の事故防止と安全 新生児の医療事故の防止・施設内の事故防止/家庭における事故予防	講義
13	実習演習 沐浴	演習
14	実習演習 沐浴	演習
15	試験	
成績評価法	規定の出席時間 単位修得試験総合で 60 点以上をもって合格とする。 講義 90 点／沐浴 10 点	
使用テキスト	大平光子他「看護学テキスト NiCE 母性看護学Ⅱ:マタニティサイクル」(南江堂)	
参考文献	医療情報科学研究所「病気がみえる 10 産科」(メディックメディア)	
備考		

科目名	精神看護学概論 I	担当教員	深堀 友覚
学年・学期	1 年 後期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

本科目の概要は、以下の点に集約される。これらの内容を全 15 回で説明する予定である。詳細は「授業計画」にて確認をして頂きたい。

- ①精神看護の基本的姿勢と周辺知識…治療形態の推移、フロイトとその弟子達の精神分析学等。
- ②精神看護と治療の歴史…患者の処遇に関する変遷、日本と世界の治療の歴史等。
- ③精神看護に関する法律…精神保健福祉法、自殺対策基本法、生活保護法等。

なお、本科目は国家試験対象科目のため、国家試験に出題されやすい単元を特に重点的に説明する。精神看護領域において、過去に国家試験に出題された単元のランキング(過去 10 年)は以下の通りである。本科目においても積極的に講義していくが、一部の内容は精神看護学概論Ⅱ及びカウンセリング(いずれも、2 年・前期)に預けるのでご了承頂きたい。

- 1 位 統合失調症の症状と看護(9/10)
- 2 位 物質関連障害の症状と看護(8/10)
- 3 位 ストレス関連障害、神経症性障害、身体表現性障害の症状と看護(8/10)
- 4 位 気分障害の症状と看護(6/10)
- 5 位 認知行動療法(5/10)／5 位 家族療法(5/10)
- 7 位 防衛機制(4/10)／7 位 精神障害の予防、カプランの予防理論(4/10)／7 位 自殺、自殺企図、自傷行為(4/10)
- 10 位 精神保健福祉法における入院形態(3/10)／10 位 器質性精神障害の症状と看護(3/10)
- 10 位 神経伝達物質と精神機能、薬理作用(3/10)／10 位 家族のストレスと健康状態のアセスメント(3/10)

授業計画

1	精神科医療の歴史的変遷と現在のグローバル・スタンダード
2	メンタルヘルスと自殺、自殺対策基本法①
3	メンタルヘルスと自殺、自殺対策基本法②
4	対象関係論(クライン、ウィニコット、ボウルビー)
5	二重拘束理論、まやかしと偽相互性、共依存
6	円環的因果律、グループ・ダイナミクス、家族療法
7	精神障害の概念と治療の歴史(海外)
8	精神障害の概念と治療の歴史(日本)
9	精神障害と法制度①(障害者権利条約、日本国憲法、成年後見制度)
10	精神障害と法制度②(入院形態、障害者総合支援)→状況設定問題対策を予定
11	精神障害と法制度③(精神障害者保健福祉手帳、障害年金、生活保護)
12	精神障害と法制度④(障害者雇用促進法、職業訓練、SST)
13	精神障害と法制度⑤(障害者自立支援法)
14	精神障害と法制度⑥(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律)
15	最終試験(45 分)及び試験の解説
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ:精神保健・多職種のつながり」(南江堂)
参考文献	必要に応じ、授業内にて発表する。
備考	最終筆記試験実施前に、試験問題の一部を配布する。問題のみを配布するので、解答は各自で調べる。(配布する問題はすべて国家試験の過去問。すべて記号選択問題。) なお、当日の試験では記号の位置を総入れ替えして出題するので、記号の位置の丸暗記という勉強法は極めて無意味となるので絶対にしないこと。

科目名	精神看護学概論Ⅱ	担当教員	石井 千恵		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

精神障害の診断と分類、精神科での治療について学習する。

授業計画

1	精神を病むこと 精神症状論と状態像
2	精神障害の診断と分類(1) 統合失調症
3	精神障害の診断と分類(2) 気分障害、神経症性障害、パーソナリティ障害
4	精神障害の診断と分類(3) 器質性精神障害、てんかん、知的障害、精神遅滞
5	精神科での治療(1) 身体療法、精神療法
6	精神科での治療(2) 行動療法、リラクゼーション、環境療法
7	精神科での治療(3) 集団精神療法、家族療法
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ:精神保健・多職種のつながり」(南江堂) 萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ:臨床で活かすケア」(南江堂)
参考文献	
備考	

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	担当教員	樋口 喜代美		
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

精神障害をもつ患者に対するケアの原則・人間関係のアセスメントについて学習する。
精神科入院治療における看護の役割、患者の安全を守るための看護の方法、患者に対する身体的なケアの方法について学習する。

授業計画

1	ケアの人間関係① ケア的前提、ケアの原則
2	ケアの人間関係② ケアの方法、人間関係のアセスメント
3	ケアの人間関係③ 患者－看護師関係、チームダイナミクス
4	精神科における身体のケア
5	精神科における心の痛み
6	精神科の治療と身体のケア
7	日常から気をつけておきたい身体合併症
8	精神科における身体のケアの実際
9	心的外傷をもつ患者への身体のケア
10	入院治療と看護の展開① 入院の意味を理解する
11	入院治療と看護の展開② 治療的環境をつくる
12	入院治療と看護の展開③ 安全を守る
13	入院治療と看護の展開④ 緊急事態に対処する
14	入院治療と看護の展開⑤ 回復を助ける
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ:精神保健・多職種のつながり」(南江堂) 萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ:臨床で活かすケア」(南江堂)
参考文献	武井麻子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開」(医学書院)
備考	

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	担当教員	石井 千恵		
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

精神疾患を持つ患者への看護の展開について理解する。
地域や精神科以外での精神看護について理解する。

授業計画

1	生活を支える制度
2	地域で精神障害者を支援するための方法
3	地域での看護の実際
4	精神疾患を持つ患者の看護過程の展開①
5	身体疾患と精神看護
6	看護カウンセリング
7	リエゾン精神看護
8	コミュニティにおける精神保健・精神看護
9	精神疾患を持つ患者の看護過程の展開②
10	地域で生活するための原則
11	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス①
12	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス②
13	精神疾患をもつ患者の看護過程の展開③
14	精神疾患をもつ患者の看護過程の展開④
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ:精神保健・多職種のつながり」(南江堂) 萱間真美他「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ:臨床で活かすケア」(南江堂)
参考文献	参考となる文献等は授業内で随時紹介する。
備考	

科目名	成人看護学実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	2年後期～3年通年	時間数	270	単位数	6

授業概要

成人期にある対象の看護上の問題点を見いだし、全人的(身体的・精神的・社会的・霊的)にとらえ解決する為に必要な基礎知識・技術・態度を習得する。

授業計画

I. 実習目的

成人期にある対象の看護上の問題点を見いだし、全人的(身体的・精神的・社会的・霊的)にとらえ解決する為に必要な基礎知識・技術・態度を習得する。

II. 実習目標

1. 成人期にある対象の特徴を理解する。
2. 手術や救急等の生命の危機状況にある対象および家族に対しての看護を実践することができる。
3. 疾病の回復・障害の克服・社会復帰の過程にある対象および家族に対しての看護を実践することができる。
4. 疾病が慢性化し、セルフケアの確立を図る必要のある対象および家族に対しての看護を実践することができる。
5. あらゆる集学的治療をしても治療に導くことができない状況にある対象および家族が意義深く生きられるように、また、尊厳を持って死を迎えられるような看護を実践できる。
6. 保健・医療・福祉チームメンバーの役割と連携の必要性を理解する。
7. 継続看護の必要性および援助の実際を理解する。
8. 成人期にある対象の個別性を捉えた看護過程が展開できる。

詳細は看護学実習基本要項ならびに成人看護学実習要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートで総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
備考	

科目名	老年看護学実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	2年後期～3年通年	時間数	180	単位数	4

授業概要

老年期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を実践するために必要な基礎知識、技術、態度を習得する。

授業計画

I. 実習目的

講義で学んだ知識・技術・態度をもとに、老年期にある対象の特徴を理解し、それを取り巻く環境や社会の役割について学びを深めるとともに、それぞれの健康レベルに応じた看護実践ができる基礎的能力を養う。

II. 実習目標

< 老年看護学実習Ⅰ >

1. 老年期にある対象の特性を身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる。
2. 保健医療福祉の現状を理解し、連携の必要性について考察できる。
3. 老年期にある対象者の生きがいについて考察できる。
4. 日常生活支援の実際を知り、その一部を実施できる。

< 老年看護学実習Ⅱ >

1. 加齢変化が疾病や障害に及ぼす影響を理解し、個別の健康問題をあげることができる。
2. 対象者に必要な看護を理解し、看護過程に基づき看護援助を提供することができる。
3. 対象者と家族をとりまくソーシャルサポートシステムについて考察できる。

詳細は看護学実習基本要項ならびに老年看護学実習要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
備考	

科目名	小児看護学実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	2年後期～3年通年	時間数	90	単位数	2

授業概要

小児看護学で学んだ理念や方法を基盤として、成長発達に応じた保育と健康問題をもつ小児と家族に対し適切な看護が実践できる基礎的能力を習得する。

授業計画

1. 実習目標

- 1) 保育活動に参加することで、小児の成長発達と養護のあり方を知る。
- 2) 入院時の生活環境を知り、健康障害をもつ小児および家族に対して健康レベルに応じた看護の必要性が分かる。

< 保育所実習 >

保育活動に参加することで、小児の成長発達と養護のあり方を学ぶ。(4日間)

< 小児病棟実習 >

入院時の生活環境を知り、健康障害をもつ小児および家族に対して健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。(1週間)

学内実習4日間

詳細は看護学実習基本要項ならびに小児看護学実習要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	

科目名	母性看護学実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	2年後期～3年通年	時間数	90	単位数	2

授業概要

妊婦、分娩、産褥各期の母性および胎児、新生児の特徴を総合的に学び、母子や家族を対象に看護の必要性を理解し、看護を実践する能力を養う。

授業計画

I. 実習目的 妊婦、分娩、産褥各期の女性および胎児、新生児の特徴を総合的に学び、母子や家族を対象に看護の必要性を理解し、看護を実践する能力を養う。 II. 実習目標 1. 妊娠、分娩、産褥各期の経過と基本的な援助を理解できる。 2. 新生児の経過と基本的な援助を理解できる。 3. 周産期にある母子の保健活動や社会資源について理解し、看護の役割を考える。 4. 母子とその家族と医療スタッフとの関わりを通して、学生の母性観、父性観を深めることができる。 詳細は看護学実習基本要項ならびに母性看護学実習要項を参照	
成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
備考	

科目名	精神看護学実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	2年後期～3年通年	時間数	90	単位数	2

授業概要

講義で学んだ知識・技術・態度をもとに、精神保健上の問題を抱えた対象の生活や生き方について考え、それを取り巻く環境や社会の役割について学びを深めるとともに対象との関係性を理解し、看護実践ができる基礎的能力を養う。

授業計画

I. 実習目的

講義で学んだ知識・技術・態度をもとに、精神保健上の問題を抱えた対象の生活や生き方について考え、それを取り巻く環境や社会の役割について学びを深めるとともに対象との関係性を理解し、看護実践ができる基礎的能力を養う。

II. 実習目標

1. 精神保健上の問題を抱えた対象の現状が理解できる。
2. 精神保健上の問題を抱えた対象を取り巻く環境や社会の役割を理解できる。
3. 精神保健上の問題を抱えた対象への援助の方法を理解し、その一部を実践できる。
4. 自己と対象の関わりを振り返り相互関係について理解できる。
5. 人間性を尊重し誠実な態度で対象に接することができる。

詳細は看護学実習基本要項ならびに精神看護学実習要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	

科目名	在宅看護概論	担当教員	中村 元女		
学年・学期	2 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

1. 在宅看護活動の対象者(療養者とその家族)と、生活の場について解説する。
2. 在宅ケアを支える制度と社会資源の活用について解説する。
3. 在宅看護における看護の役割を解説する。

授業計画

1	I 日本の在宅看護の成立 1.在宅看護とは 2.訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史
2	II 日本の在宅看護をめぐる社会的背景 1.日本の家族の変遷と現状 2.高齢化の進行と高齢者のとらえ方 3.死のとらえ方の文化的背景 4.在宅における終末期の考え方
3	III 在宅看護の法的基盤とシステム 1.地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムとは 互助と自助 共助と公助
4	III 在宅看護の法的基盤とシステム 2.介護保険制度 保険者・被保険者・受給権者 申請の流れ 介護保険サービス
5	III 在宅看護の法的基盤とシステム 3.訪問看護制度 訪問看護とは 訪問看護制度の誕生 医療保険と介護保険
6	IV 在宅看護における連携 1.退院支援と退院調整
7	V 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 1.病院・施設・訪問看護ステーション・保健センターの役割
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	石垣和子他「看護学テキスト NiCE 在宅看護論」(南江堂)
参考文献	参考となる文献等は授業内で随時紹介する。
備考	

科目名	在宅看護方法論 I	担当教員	中村 元女		
学年・学期	2 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

1. 在宅での日常生活援助について、どうアセスメントし、QOL につないでいくのかを解説する。
2. 生命を守り、生活を支えるという在宅療養で大切な視点から、対象者にとっての生活の質について解説する。

授業計画

1	VIII ヘルスアセスメントと看護技術 ―在宅療養支援 1.口腔ケアと嚥下訓練
2	2.排泄支援
3	3.清潔ケア
4	4.フットケア
5	5.移動の援助
6	6.肺炎予防
7	7.感染予防
8	8.心不全予防
9	9.低栄養予防
10	精神疾患をもつ療養者への在宅看護 統合失調症をもつ療養者①
11	精神疾患をもつ療養者への在宅看護 統合失調症をもつ療養者②
12	終末期の療養者への在宅看護 終末期の認知症療養者①
13	終末期の療養者への在宅看護 終末期の認知症療養者②
14	まとめ
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	石垣和子他「看護学テキスト NiCE 在宅看護論」(南江堂)
参考文献	参考となる文献等は授業内で随時紹介する。
備考	

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	担当教員	中村 元女		
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

1. 人間本来の身体のはたらき、疾患により生じる障害と治療を理解し、病気や障害があってもその人らしい生活が成り立つように、利用者の身体に直接はたらきかけたり、利用者・家族を取り巻く環境を調整することについて解説する。
2. 在宅で実施される医療処置が生活のなかでどのように実施されているかを解説する。

授業計画

1	Ⅶ ヘルスアセスメントと看護技術 ―在宅医療支援 1.服薬管理
2	2.在宅酸素療法
3	3.在宅輸液療法
4	4.在宅人工呼吸療法
5	5.経管栄養
6	6.膀胱留置カテーテル
7	7.呼吸リハビリテーション
8	8.疼痛管理
9	9.褥瘡管理
10	神経系難病の療養者への在宅看護 人工呼吸器を装着している ALS の療養者①
11	神経系難病の療養者への在宅看護 人工呼吸器を装着している ALS の療養者②
12	疾病や障害をもつ小児への在宅看護 人工呼吸器管理が必要な小児①
13	疾病や障害をもつ小児への在宅看護 人工呼吸器管理が必要な小児②
14	まとめ
15	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	石垣和子他「看護学テキスト NiCE 在宅看護論」(南江堂)
参考文献	参考となる文献等は授業内で随時紹介する。
備考	

科目名	在宅看護方法論Ⅲ	担当教員	中村 元女		
学年・学期	3 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

在宅看護における事例の展開を通し、在宅看護の実際について教授する。

授業計画

1	I. 病状・病態の変化の予測と自立支援 1.病状・病態変化の予測の重要性 2.自立支援への取り組み
2	II. 在宅療養と家族支援 1.家族の機能 2.家族のアセスメント 3.家族介護者のアセスメント
3	III. 在宅看護における倫理的課題 1.自己決定支援 2.権利擁護 3.成年後見制度 4.高齢者の虐待防止 5.情報管理
4	IV. 在宅看護過程の考え方と展開方法 1.在宅看護過程の考え方 2.在宅看護過程における対象のとらえ方 3.在宅看護過程の進め方
5	V. 要介護高齢者の在宅看護展開① 1.要介護高齢者の特徴 2.療養者の理解
6	V. 要介護高齢者の在宅看護展開② 1.要介護高齢者の自立支援とは
7	V. 要介護高齢者の在宅看護展開③ 1.安全管理
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	石垣和子他「看護学テキスト NiCE 在宅看護論」(南江堂)
参考文献	授業の中で提示する。
備考	

科目名	看護学概論Ⅱ	担当教員	野呂 但・松村由加 真々田 美穂		
学年・学期	3 年前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

チーム医療および他職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップが理解できるよう、マネジメントの基礎を解説する。看護におけるマネジメント(ケアサービス)をグループワーク・発表を通して学び、理解する。看護を取り巻く制度や組織と個人について考察する。

授業計画

1	災害看護① 災害とは、災害の種類と特徴、災害医療について	野呂
2	災害看護② 災害派遣の実際、災害について考えてみよう(GW)	野呂
3	看護倫理① 看護倫理とは	松村
4	看護倫理② 看護実践上の倫理的概念	松村
5	看護倫理③ 看護者の倫理綱領	松村
6	看護倫理④ 臨地実習に必要な看護倫理	松村
7	看護倫理⑤ 倫理的問題へのアプローチ	松村
8	国際看護① 国際看護学の概要・グローバルヘルス・世界の健康問題	真々田
9	国際看護② 国際協力のしくみ・異文化看護・開発協力と看護	真々田
10	看護管理① 看護とマネジメント、看護ケアのマネジメント	真々田
11	看護管理② 看護職のキャリアマネジメント	真々田
12	看護管理③ 看護サービスのマネジメント	真々田
13	看護管理④ マネジメントに必要な知識と技術	真々田
14	看護管理⑤ 看護を取り巻く諸制度	真々田
15	試験	
成績評価法	最終筆記試験 100%	
使用テキスト	浦田喜久子編「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学」(医学書院) 上泉和子他「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理」(医学書院)	
参考文献	参考となる文献等については、授業内で随時紹介する。	
備考		

科目名	医療安全と看護	担当教員	市原 今日子		
学年・学期	3 年 前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療現場における事故を通し、患者の安全を守ることの重要性について理解を深める。

授業計画

1	医療安全を学ぶこと・医療安全の歴史
2	看護師の業務・事故の危険性(診療介助)
3	看護師の業務・事故の危険性(診療介助)
4	看護師の業務・事故の危険性(療養上の世話)
5	事故を起こさないために コミュニケーション KYT
6	事故を起こさないために コミュニケーション KYT
7	組織的な医療安全管理体制
8	試験
成績評価法	最終筆記試験 100%
使用テキスト	川村治子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全」(医学書院)
参考文献	
備考	

科目名	看護研究 I	担当教員	松 寄 英 士		
学年・学期	2 年 後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

看護の目標は、健康の維持・増進、疾病からの回復、死に直面している人への安楽の提供などがあげられる。このように看護は人間を対象とした実践を伴う仕事であり、その実践方法を確かに納得できる裏付けをもって明らかにし、改善していくことが看護研究の大きな目的といえる。この授業では、研究の目的、方法、研究過程、研究計画の立案などについて講義と演習を交えて学習していく。講義の達成目標としては、研究テーマを探し研究計画書の作成ができるような基礎をすることである。

授業計画

1	研究とは、研究の基本
2	研究過程と概念枠組み
3	研究テーマを探す
4	文献の種類とその活用、文献を批判的に読む
5	研究の手順、研究の種類、量的研究の方法
6	質的研究、事例研究の方法
7	研究計画の立案と計画書の作成
8	試験
成績評価法	授業時の小課題、計画書の作成、試験の総合評価
使用テキスト	使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考文献	授業時に、参考となる文献等は随時紹介する。
備考	

科目名	看護研究Ⅱ	担当教員	山崎 紀子・高橋 真希		
学年・学期	3 年前期～後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

自己の研究テーマを明確にし、看護研究を実施・発表するための手法と過程を教授する。
--

授業計画

1	オリエンテーション:看護研究のプロセス
2	看護研究論文の作成① テーマ設定について 看護研究計画書の作成
3	看護研究論文の作成② 看護研究計画書の修正 テーマ修正
4	看護研究論文の作成③ 論文構成・内容の修正
5	看護研究発表にむけて① 発表会についてのガイダンス
6	看護研究発表にむけて② 発表資料及び原稿の作成と修正
7	看護研究発表にむけて③ 発表リハーサル
8	試験(発表)
成績評価法	規定の出席時間を満たした者を評価対象とし、出席状況・授業への参加態度・課題・論文作成・看護研究発表を合わせて総合的に評価する。60 点以上をもって合格とする。
使用テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考文献	参考となる文献等は授業内で適宜紹介する。
備考	

科目名	看護技術評価	担当教員	佐竹 史彦 他 看護師科教員		
学年・学期	3 年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護に関する各科目において習得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開するために必要な知識・技術・態度を育てる。

授業計画

1	ガイダンス 看護技術評価の意義 グループワークⅠ：複数受け持ち患者の疾患の理解・看護計画
2	グループワークⅠ：複数受け持ち患者の疾患の理解・看護計画
3	グループワークⅡ：複数患者の優先順位の看護計画
4	グループワークⅡ：複数患者の優先順位の看護計画
5	実践演習リハーサル(優先度に合わせた看護実践)
6	実践演習リハーサル(優先度に合わせた看護実践)
7	グループワークⅢ：優先度に合わせた看護実践についての結果・評価と計画の修正
8	実践演習A－① 申し送り(ワークシートの記入、日勤から夜勤へ)
9	実践演習A－② 修正した計画に準じ、優先度に合わせた看護実践
10	実践演習A－② 修正した計画に準じ、優先度に合わせた看護実践
11	実践演習B 予定外の課題への対処
12	実践演習B 予定外の課題への対処
13	グループワークⅣ：予定外の課題への対処
14	グループワークⅤ：統合実習に向けた自己の課題についての振り返り
15	試験・まとめ
成績評価法	出席状況・授業やGWへの参加態度・課題・レポート・試験によって評価する。既定の出席時間を満たした者を評価対象とする。 最終筆記試験 80%、レポート・課題・参画 20%
使用テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考文献	授業内で紹介する。
備考	

科目名	在宅看護論実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	3年通年	時間数	90	単位数	2

授業概要

地域社会で生活している人々の健康レベルを知り、健康の保持・増進のための活動や地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、家庭で充実した生活が送れるように援助できるための基礎的な能力を養う。また在宅看護に必要な・福祉の制度を理解し、看護の機能と役割の実際を学ぶ。

授業計画

I. 実習目的 1)地域社会で生活している人々の健康の保持・増進のための保健・医療・福祉の提携や、看護活動の実際を学ぶ。 2)地域および在宅において、療養している人々とその家族を理解し、在宅における看護機能と役割を学ぶ。 <保健センター実習>(2日間) 地域社会で生活する人々に対する保健活動の実際について学ぶ。 学内実習(2日間) <訪問看護実習>(2週間) 地域および在宅において、療養している人々とその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割の実際について学ぶ。 詳細は看護学実習基本要項ならびに在宅看護論実習要項を参照	
成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	

科目名	看護統合実習	担当教員	看護師科教員・非常勤教員		
学年・学期	3年後期	時間数	90	単位数	2

授業概要

病棟管理の実際・複数受け持ち演習を通して、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任感を養う。

授業計画

1. 実習目標
 - 1)看護部の役割、病棟看護師長やチームリーダーの役割、病棟管理の実際、他部門との調整などの見学を通して看護管理の実際を学ぶ。
 - 2)夜勤帯の看護師の役割がわかる。
 - 3)診療の補助技術を安全性、効率性を考えながら見学できる。
 - 4)複数の患者の看護過程を展開し、ケアの優先度を判断しながら学内演習ができる。
 - 5)統合実習で学んだことを通し、チームの一員として自己の目標を明確にすることができる。

詳細は看護学実習基本要項ならびに看護統合看護論実習要項を参照

成績評価法	実習内容・実習記録・実習参画度・実習レポートにより総合的に評価する。 規定の出席時間数を満たし、実習記録を提出することが最低条件となる。
使用テキスト	
参考文献	
備考	